

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(三役企画)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
三役会 企画 合同 会議	第1回	<p>◆開催期日 2012年7月11日</p> <p>◆開催場所 杉山ビル 3F 盛岡 NEW WING</p> <p>◆参加人数 7名 三役/長岡・加川・林 工藤(昌)・山田 企画/照井・工藤(朋)</p> <p>◆実施内容・議題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の活動について</li> <li>・研修会について</li> <li>・盛岡市工業ビジョン策定について</li> <li>・理事会の活動について</li> <li>・第67回懇談会について</li> <li>・第4回理事会について</li> <li>・盛岡市キャリア教育推進協議会について</li> <li>・今後の活動について</li> </ul>	<p>1. 今後の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員が持っている情報・技術などの価値あるものについて普及を行いたい。会員の持つ固有技術情報や悩み事・課題・求める情報などを開示し、連鎖的に活動をつなげていく道を探りたい。連携する場としての強化を狙う。</li> </ul> <p>2. 研修会について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北上・一関地区の見学、一関泊まりという方向で理事会にかける。</li> </ul> <p>3. 盛岡市工業ビジョン策定について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の発表は見送りになった。盛岡市工業振興懇話会の協議が形になってきたところでお話する。</li> </ul> <p>4. 理事会の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理事会が中心となって会の運営を行っていくというのが基本的な考え。理事会の毎月開催、懇談テーマの決定などを行っているが、新たな方針や目標が必要ではないか。</li> </ul> <p>5. 第67回会員懇談会について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容と時間割の確認。担当 照井理事、工藤(朋)理事</li> </ul> <p>6. 第4回理事会について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2項の研修会について承認をもらう。10月26日(金)、10月27日(土)の2日間を予定。バスで移動。</li> <li>・詳細はこれから検討する</li> </ul> <p>7. 盛岡市キャリア教育推進協議会について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・盛岡市教育委員会から事前調査として受け入れ可能企業把握の為、企業情報提出の依頼あり。</li> <li>・理事会で同意を得た後、事務局から会員にデータ配信を行う。</li> </ul> <p>8. 今後の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回理事会の日程を確認。(8月10日13時より、ホテルエース盛岡で開催)</li> <li>・会員の異動について、(株)ユアテック岩手支社 盛岡営業所長 黒沢雄幸 ⇒ 菅原雄二、盛岡ターミナルビル(株) 代表取締役社長 強間俊則⇒大見山俊雄、いずれも8月理事会より参加予定。(以下余白)</li> </ul>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(三役企画)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
三役会 企画 合同 議 会	第2回	<p>◆開催期日 2012年8月3日</p> <p>◆開催場所 株式会社 盛菱会議室</p> <p>◆参加人数 7名 三役/長岡・加川・山田・林 企画/小林・照井・工藤(朋)</p> <p>◆実施内容・議題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の活動について</li> <li>・研修会について</li> <li>・盛岡市工業ビジョン策定について</li> <li>・理事会の活動について</li> <li>・第68回会員懇談会について</li> <li>・第5回理事会について</li> <li>・職場体験受け入れについて</li> <li>・今後の活動について</li> <li>・その他</li> </ul>	<p>1. 今後の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員が持っている情報・技術等の価値あるものの普及。11月開催の懇談会において、既存技術(特許切れになっているもの)について今活用できるものはないか、掘り起こしができないかなどを話し合ってはどうか。経済産業局に講演を依頼してみる。 →JST(独立行政法人科学技術振興機構)復興促進センター運営委員会時に会長が依頼。</li> </ul> <p>2. 研修会について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な計画を検討しているところ。</li> </ul> <p>3. 盛岡市工業ビジョン策定について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月24日に盛岡商工会議所による会議があったが、大きな展開はなかった。</li> </ul> <p>4. 理事会の活動について。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異動の確認。(株)ユアテック岩手支社 盛岡営業所長 黒沢雄幸 ⇒ 菅原雄二、盛岡ターミナルビル(株)代表取締役社長 弮間俊則⇒大見山俊雄、ベン岩手工場 北田隆 常務取締役 ⇒ 鈴木 一実 工場長、都市再生機構岩手都市開発事務所 所長 大石 義明⇒今井 雄一、みちのくキャンティーン 高橋登美夫 ⇒盛岡営業所長 外川 賢二(名簿変更はせず)、岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 伊藤 学部長 ⇒ 伊藤 教授。</li> <li>・理事会の出席率は80%を超える。この高い出席率をうまく活かしたい。</li> <li>・懇談会については、会員が参加しやすい雰囲気をつくり会を運営する。参加してよかったという思いが大切。</li> <li>・会員増もはかりたい。</li> </ul> <p>5. 第68回会員懇談会について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当理事：小林、工藤(朋)だが、小林理事が転勤の為、加川副会長が代理を務める</li> <li>・第一開明 小林常務の後任は、当面の間、同社取締役 吉田 武司 盛岡支店長。</li> <li>・9月会員懇談会のテーマは「盛岡広域圏の定住人口を増やすには」。次回理事会にかける。</li> <li>・講話は「東日本大震災後の岩手におけるIT支援活動と必要とされる災害コミュニケーションの課題」岩手県立大学ソフトウェア情報学部 村山 裕子 教授</li> <li>・講演は震災関連について、日本政策投資銀行東北支店 梅津支店長にお願いをしている。</li> </ul> <p>6. 今後の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理事会、会員懇談会の日程及び担当を確認した。</li> <li>・8月28日 盛岡市長ビアパーティ NEWWING 18時30分 の紹介</li> <li>・北上川流域ものづくりネットワークの担当について鷹木理事から来年の担当理事の交代依頼があり相談したい。</li> <li>・県内研修について。ヤクルトと佐竹(北上市)、一関の企業2社。日程は10月26日、27日。詳細は川嶋印刷 菊池社長に一任する。佐竹への質問があれば事前にとのこと、理事会で連絡する。</li> </ul> <p>7. 職場体験受け入れについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・盛岡市教育委員会より統一様式の依頼があった。再度会員に連絡する。</li> </ul> <p>8. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災で生じたガレキの為に、クリーンセンターが後7年しか持たない。次の処分場についての検討会設置。長岡会長に委嘱有り。</li> <li>・小林理事の送別会。8月25日(土)18時頃から三寿司の予定。</li> </ul>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(三役企画)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
三役会 企画 合同 会 議	第3回	<p>◆開催期日 2012年11月8日</p> <p>◆開催場所 株式会社 盛菱会議室</p> <p>◆参加人数 7名 三役/加川、林、工藤、 企画/吉田、照井、工藤(朋)</p> <p>◆実施内容・議題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第7回理事会、第69回会員懇談会について</li> <li>・第69回会員懇談会、準備の確認</li> <li>・年末発表会について</li> <li>・第70回会員懇談会について</li> <li>・今後の活動について</li> </ul>	<p>1. 第7回理事会、第69回会員懇談会について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出欠確認が取れていない会員に連絡を取った。懇談会24名、講演講話34名、懇親会33名。</li> <li>・懇談会のグループ分けなどは当日行う事を確認。</li> <li>・会長の外部出席状況については、会長が休養中の為報告省略。</li> <li>・理事会にて、研修旅行、地域連携フォーラムについての報告を行う。</li> <li>・69回定例懇談会次第について内容確認をした。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演「畜産バイオマス発電事業について」 株式会社バイオマスパワーしずくいし 代表取締役社長 古川 斉司 様</li> <li>・PR「小岩井農牧株式会社事業概要」 小岩井農牧株式会社 取締役経営開発室長 辰巳 俊之 様</li> <li>・講話「「におい」と嗅覚コミュニケーション研究の現状と展望」 岩手大学農学部応用生物科学課程准教授 山下 哲朗 様</li> <li>・盛岡広域振興局より、「いわてデジタルコンテンツ産業育成プロジェクト発足」、「三陸の食を楽しむタベ(11月28日)」についてPRを行いたい旨申し出があったとの報告があった。</li> </ul> </li> </ul> <p>2. 第69回会員懇談会の準備について確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・御礼のお土産、3組(小岩井農牧、バイオマスパワーしずくいし、岩手大学)</li> <li>・当日の資料(理事会次第、会員懇談会次第、講演資料、講師略歴、領収書) →事務局で準備 伊藤さんに確認済み</li> </ul> <p>3. 年末発表会について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当：鷹木理事、藤澤理事</li> <li>・講演は行わないことを確認した。</li> <li>・工業高校、農業高校には詳細が決まりしだい、日程などの連絡をする。</li> <li>・ティーパーティを設ける。高校生にお土産を渡すのではなく、高校生の話を直接聞く機会を設けたい。 上記についてクラブからの参加者を理事または会員全体のどちらとするか、テーブル分けについて各高校毎、あるいは半々とするかなど、次回理事会で意見を求めることとした。</li> <li>・次第について、概略時間等を確認した。</li> </ul> <p>4. 第70回会員懇談会(1月)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当 中村理事、寺田理事</li> <li>・講演 講演者、演題未定だが経済関係の話題を考えたい。第7回理事会で意見を募る。</li> <li>・講話 岩手県立大学にお願いする</li> </ul> <p>5. 今後の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日程と担当者を確認した。</li> </ul> <p>(以下余白)</p>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(理事会)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
理事会	第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日2012年4月11日</li> <li>◆開催場所ホテルエース盛岡</li> <li>◆参加人数 19名</li> <li>◆実施内容・議題等               <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害支援について</li> <li>・盛岡市工業振興懇話会委員について</li> <li>・今後の活動・企画について等</li> <li>・定期総会資料について</li> <li>・基本方針について</li> <li>・その他</li> </ul> </li> </ul>	<p>出席者 三役／長岡・加川・林・工藤・山田          理事／寺田・照井・堀井・黒澤・鈴木・坂井・千田・弭間・鷹木・工藤(朋)、幹事／小山・小嶋</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害支援について              岩手の学び希望基金に10万円を寄付。今年で2年目、10年間継続の計画。</li> <li>2. 盛岡市工業振興懇話会委員について              当クラブからは山田副会長を推薦。懇話の内容は工業の現状認識、工業振興ビジョンに関すること、工業振興の為に必要な事。市の関係部門がワーキンググループで事前に話し合った内容を元に議論する。</li> <li>3. 今後の活動企画について              第66回会員懇談会について、盛岡広域振興局長ら新しく着任した方のお話を聞いてみたい。懇談会のテーマについては「新事業の夢を語る」とする。花巻空港より、花巻空港の利用促進についてPRしたい旨申し出があった。会費について、エストが平成23年の会費を納入したが24年は免除、23年についても第12回総会後に返却。総会について、スケジュール及び各担当の確認を行った。</li> <li>4. 定期総会資料について              修正する点を確認。会計監査報告の内容、前年度繰越金の記載について確認。東日本大震災復興の為に集めている1,000円については、岩手の学び希望基金、子ども科学館、盛岡市などへの寄付金とする為に、支援基金として別会計で積み立てている。盛岡工業クラブ会員アンケートについて、1位は：自由な懇談、2位：外部講師による講演・セミナー、今年度講演テーマについては「食、環境、教育、復興」とする。経産局、復興局の話を聞く機会を設けたい。年末の講演は行わず、高校生の発表のみとする。今年度予算について、会費収入を 2,950千円→3000千円に修正。前年度未納会費額は削除。予算のうち研修事業費1,500千円は のべ300人の参加、参加費5,000円と見積もった。理事当番表の役職など訂正を行った。</li> <li>5. 基本方針について              (1) 定例懇談会を通じて会員相互による自由な意見交換を実施する。(2) 行政及び教育研究機関との交流の場を作り、産学官連携によるビジネスなどの共同研究や行政などの地域課題について懇談する、(3) 会員から要望の多いテーマについて研修活動を実施する。本年の予算の力点は研究継続への助成・情報収集・講師への謝金について充実させる。視察研修については、東京近郊東北の工場見学。アンケートを元に決定。時期は10月頃として検討する。会員OB会について。総会後の懇親会への参加を案内する。文書は照井理事作成。第12回総会後の懇親会へ招く来賓について確認した。</li> <li>6. その他             <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局担当 盛菱の岡田さんが5月末に会社退職予定。新しい事務局担当は伊藤里香さん。</li> </ul> </li> </ol>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(理事会)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
理事会	第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2012年5月11日</li> <li>◆開催場所 村ト味リソNEW WING</li> <li>◆参加人数 17名</li> <li>◆実施内容・議題等               <ul style="list-style-type: none"> <li>・第66回定例懇談会について</li> <li>・第12回定期総会について</li> <li>・その他</li> </ul> </li> </ul>	<p>出席者 三役/長岡・加川・林・工藤・山田 理事/寺田・照井・鈴木・中村・黒澤・水戸谷・坂井・千田・福勢・藤澤・工藤(朋)、幹事/新谷</p> <p>1. 第66回会員懇談会について 司会：山田、北田 受付：工藤、照井 写真：藤澤 記録：工藤(朋) 乾杯 谷藤市長、中締 菊池盛岡広域振興局長にお願いする。 盛岡工業クラブOB 23名に案内をし、19名から返信有り。8名が出席。ご連絡頂いた方全員に会社を通じて講演「負けてなるものか！」(株)マイヤ 米谷 春夫 代表取締役社長。 記念品をお渡しする。懇親会には、会長と来賓の方のテーブルを決め、会員、OBはフリーで着席頂く。 PR「花巻空港利用促進について」 花巻空港 中田社長、日本航空 志田マネージャー</p> <p>2. 第12回定期総会について 定足数について、出席者37会員、委任状21会員 計：58会員 60会員の半数を満たす。 議長は会則により長岡会長が務める。活動報告については加川副会長。</p> <p>3. その他 ・岡田さんへの記念品について、予算3万円で工藤副会長に依頼する。 ・次回理事会において工業クラブ会則の見直しを行う。 ・次回理事会日程を6月11日から12日へ変更。 ・5月11日午前に盛岡市こども科学館にて盛岡市少年少女発明クラブに10万円を寄贈。12日岩手日報に掲載。</p>
理事会	第3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2012年6月12日</li> <li>◆開催場所 ホテルエース盛岡</li> <li>◆参加人数 16名</li> <li>◆実施内容・議題等               <ul style="list-style-type: none"> <li>・第55回定例懇談会について</li> <li>・今後の活動について</li> </ul> </li> </ul>	<p>出席者 三役/長岡・加川・林・工藤・山田 理事/藤澤・寺田・照井・鈴木・中村・黒澤・千田・弭間・福勢・工藤(朋)、幹事/新谷</p> <p>1. いわたの学び希望基金について 贈呈式は行わず送金のみとすることを確認。</p> <p>2. 工業クラブホームページの活用について 今後の活用の可能性について再確認した。7月の会員懇談会でも確認を行う。</p> <p>3. 盛岡市工業振興懇話会について 山田副会長から報告。 今後の主張の方向性・希望などを確認。過去の工業振興政策についてのまとめを要望。 一部部門を盛岡に置いている企業に対してのヒアリングを要望（既に誘致した企業の情報収集） 広域企業にアンケートをお願いしているそうなので、該当する盛岡工業クラブ会員に協力をお願いしたい。 盛岡市としては特定の企業誘致は考えていない。次回は7月18日。 会員から製造業の設備をメンテナンスする企業を誘致してはどうかとの意見あり。</p> <p>4. 盛岡工業クラブ会則改定について 震災に伴い「休会」の項目を追加。また、表現の適正化や実態に合わせた内容に変更した。（詳細は改訂履歴） 工業クラブは法人格をとらないのかという質問があり、財産管理の問題があり現状では難しいと会長が回答した。</p> <p>5. 第67回会員懇談会について 7月ホテルエース盛岡の会場が予約できず。7月をNEWWING、9月をホテルエース盛岡で開催するとした。 講演についてはいわて産業振興センター熊田淳専務理事に依頼、内諾済み。講話は岩手大学に依頼済み。 懇談会テーマは「省エネに対する具体的な取り組みについて（昨年体験）」とするとした。</p> <p>6. その他 見学会については10月を予定。北上：ヤクルト、佐竹製作所、北上ハイテクペーパー 一関：三光化成を予定。 北上市の企業を見学後、一関に移動、宿泊は一関周辺を第1案に、手配は川嶋印刷菊池社長に依頼。</p>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(理事会)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
理事会	第4回	<p>◆開催期日 2012年7月11日</p> <p>◆開催場所 ホテル味'リクNEW WING</p> <p>◆参加人数 17名</p> <p>◆実施内容・議題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手の学び希望基金について</li> <li>・名義使用について</li> <li>・退会会員について</li> <li>・会則改定について</li> <li>・第67回会員懇談会について</li> <li>・今後の活動について</li> <li>・その他</li> </ul>	<p>出席者 三役/長岡・加川・林・工藤・山田 理事/寺田・藤澤・照井・黒澤・水戸谷・坂井・千田・福勢・中村・鷹木・工藤(朋)、幹事/新谷</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. いわたの学び希望基金について 6月28日送金済。今回より復興局総務課窓口希望基金寄付申込書提出後に送金することになった。</li> <li>2. (公財)日本鑄造工学会全国大会に係る後援について。 盛岡工業クラブの名義使用許可を報告。会期：平成25年10月12日～15日</li> <li>3. 退会会員について 通建電気興業株式会社岩手支社 横山 茂支 社長 (6月12日現在 60会員)</li> <li>4. 盛岡工業クラブ会則改定について 盛岡工業クラブホームページに記載したことを報告。</li> <li>5. 第67回会員懇談会について 担当：照井理事・工藤(朋)理事 受付：藤澤 写真：工藤 記録：山田 講演「平成24年いわて産業振興センターの活動について」 岩手産業振興センター 熊田 淳 専務理事 講話「東日本大震災-岩手大学動物病院の被災動物救護活動」 岩手大学教授 農学部附属病院 佐藤 れえ子 医院長 懇談会テーマ「省エネに対する具体的な取り組みについて(昨年の体験)」 テーブル分けはABCの3テーブル。</li> <li>6. 今後の活動について 題5回理事会(8月開催)について。会場はホテルエース。第68回懇談会 担当理事について相談したい。 県内研修 10月26日、27日の二日間、北上：ヤクルト、佐竹 一関：工場2社 宿泊：瑞泉閣 を予定 第68回会員懇談会 講師には日本政策投資銀行仙台支店長に依頼した。</li> <li>7. その他 ・盛岡工業クラブ名義の口座について、会長名になっているが、盛岡工業クラブの定款を提出して口座を作っているために工業クラブの口座として扱われることを確認できた。 ・工藤理事より、イベント紹介「武士道なう。」7月21日新渡戸稲造博士生誕150年祭 ・盛岡市キャリア教育推進協議会より依頼。「盛岡市職場体験受入先リスト」への記載をお願いしたい。 ・盛岡商工会議所工業部会・産業育成特別委員会合同会議出席に出席できる方は会長まで連絡してほしい。 ・東北復興ギャザリング in 陸前高田について資料を回覧 ・8月8日15時30分から17時 メトロポリタン本館。岩手県商工労働部意見交換 県工業クラブへ出席依頼あり。 ⇒会員にメールを配信して参加希望者を募る。</li> </ol>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(理事会)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
理事会	第5回	<p>◆開催期日 2012年8月10日</p> <p>◆開催場所 ホテルエース盛岡</p> <p>◆参加人数 15名</p> <p>◆実施内容・議題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手県商工労働観光部との懇談</li> <li>・第9回岩手県東日本津波大震災復興委員会</li> <li>・盛岡市こども科学館へ寄贈</li> <li>・今後の活動について</li> <li>・盛岡市工業ビジョン策定について</li> <li>・理事会の活動について</li> <li>・北上川流域ものづくりネットワーク運営委員について</li> <li>・68回会員懇談会について</li> <li>・職場体験受け入れについて</li> </ul> <p>(次ページに続く)</p>	<p>出席者 三役/長岡・加川・工藤・山田 理事/菅原・照井・水戸谷・鷹木・藤澤・吉田・坂井・千田・畠山・工藤(朋)、幹事/新谷</p> <p>1. 岩手県商工労働観光部との懇談(8月8日) 加川副会長、山田副会長が出席。企業誘致のためのインフラ整備が不十分。需要を見つけてから整備では遅い。 新日鉄釜石から道路整備、LNG設備整備について要望があった。 被災者の就労支援対策への応募者が少ない。このために本年は予算が激減⇒正規雇用でないことがネックに？</p> <p>2. 第9回岩手県東日本津波大震災復興委員会(7月30日) 商工会連合会、銀行協会、福祉協議会より報告。 高台移転の二重ローン問題。(自治体が土地買取をしたいが抵当権が残っているために売買ができない。金融機関の抵当権ははずしてもらい必要がある。)</p> <p>3. 盛岡市こども科学館へNTTdocomoのノベルティ寄贈(8月3日) 資料「夏のこども科学館」を回覧。</p> <p>4. 今後の活動について 会員が持っている情報・技術などの価値ある普及を行いたい。例えば特許切れになっている技術について今活用できるものはないか。世に出たときは早すぎて時代に受け入れられなかった技術があるのではないか。⇒11月の懇談テーマにしてはどうか。 11月講演について、JST復興促進センター運営委員会で、経産省、農水省に講演を依頼してみる。 ※JST復興促進センターについて、委員の名簿など資料回覧</p> <p>5. 県内視察研修について(10月26-27日予定) 進行状況：川嶋印刷菊池社長に手配を依頼。宿泊先は瑞泉閣。 北上市：ヤクルト、佐竹、一関市：三興化成 もう1社部品工場を見学。 両磐インダストリアルプラザ(一関の工業クラブ)との交流の提案があるが、今回は見送り。</p> <p>6. 盛岡市工業ビジョン策定について 今回は特に目新しい内容は無し (次ページに続く)</p>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(理事会)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
理事会	第5回 (続き)	<p>(前ページから続く)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2012年8月10日</li> <li>◆開催場所 ホテルエース盛岡</li> <li>◆参加人数 15名</li> <li>◆実施内容・議題等               <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手県商工労働観光部との懇談</li> <li>・第9回岩手県東日本津波大震災復興委員会</li> </ul> </li> <li>・盛岡市こども科学館へ寄贈</li> <li>・今後の活動について</li> <li>・盛岡市工業ビジョン策定について</li> <li>・理事会の活動について</li> <li>・北上川流域ものづくりネットワーク運営委員会について</li> <li>・68回会員懇談会について</li> <li>・職場体験受け入れについて</li> </ul>	<p>(前ページから続く)</p> <p>7. 理事会の活動について        人事異動に伴う名簿の変更：盛岡ターミナルビル 弭間→大見山俊雄、 ユアテック 黒澤→菅原雄二、        ベン 北田→鈴木一実、都市再生機構 大石→今井雄一、みちのくキャンティーン 総務課長 中村→        盛岡営業所長 外川賢二、 岩手県立大学 伊藤 ソフトウェア情報学部長→ソフトウェア情報学部教授        第一開明 小林 (9月1日付で転勤) 9月定例会の担当については加川副会長ではどうか？以後、第一開明の        担当回と東北電力の担当回を交換する。</p> <p>8. 北上川流域ものづくりネットワーク運営委員会について        (資料回覧) 現在は鷹木理事だが、次年度は照井理事としたい。</p> <p>9. 第68回会員懇談会について (担当：加川・工藤)        懇談テーマ「盛岡広域の定住人口を増やすには」        盛岡広域：58万人、県南広域：60万人 誘致企業のために人口増ではないか？        これを80万人、100万人に増やすことはできないか？人口が増えないと産業は成り立たない。        懇談当日は、岩手県のWEBページから年代別の人口データ統計資料をダウンロードして配布。</p> <p>10. 職場体験受け入れについて        盛岡市より統一様式での登録の依頼。会員に登録を呼びかける。</p>
理事会	第6回	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2012年9月11日</li> <li>◆開催場所 ホテルエース盛岡</li> <li>◆参加者 14名</li> <li>◆実施内容・議題等               <ul style="list-style-type: none"> <li>・JST復興促進センター盛岡事務所運営委員会</li> <li>・第2回北上川流域ものづくりネットワーク運営委員会</li> <li>・第68回会員懇談会について</li> <li>・今後の講演について</li> <li>・視察研修について</li> </ul> </li> </ul>	<p>出席者 三役/長岡・加川・林・工藤        理事/藤澤・畠山・照井・水戸谷・坂井・千田・吉田・大見山・中村・北田</p> <p>1. JST復興促進センター盛岡事務所運営委員会 第1回(8月20日)        研究題材が提出されれば調査費として200万円、申し込みが通れば2,000万円まで。        2点を要望した。(1)採択されなかった場合は理由を伝えてもらいたい(2)ほかの助成金の利用など        紹介してもらいたい</p> <p>2. 第2回北上川流域ものづくりネットワーク運営委員会        鷹木理事出席。役員の移動報告、全員アンケートについて、先進地視察、生産技術高度化委員会についてなど。</p> <p>3. 第68回会員懇談会について        担当：加川副会長、工藤副会長 受付：林・水戸谷 写真：藤澤 記録：中村        懇親会 乾杯：柳村村長 中締：大見山 理事        参加者が少ないために懇談会のグループ分けは無し。</p> <p>4. 今後の講演について        JSTの会議において、東北経済産業局地域経済部長 滝本浩司様、東北農政局生産部長 丸山恵史様に依頼。</p> <p>5. 視察研修について        日時 平成24年10月26日、27日。見学は北上地区1社：株式会社東北佐竹製作所は了解済み。        他一関地区2社は交渉中。昼食 あさひや、宿泊先 瑞泉閣</p>



# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(理事会)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
理事会	第7回	<p>◆開催期日 2012年10月11日</p> <p>◆開催場所 ホテルエース盛岡</p> <p>◆参加者 15名</p> <p>◆実施内容・議題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会長外部会議出席</li> <li>・年末講演会について</li> <li>・第69回会員懇談会について</li> <li>・研修会について</li> <li>・岩手県立大学が行う就業力育成支援事業について</li> <li>・その他</li> </ul>	<p>出席者 三役/長岡・加川・林・山田 理事/藤澤・菅原・水戸谷・大見山・吉田・中村・坂井・千田・富山・工藤(朋) 幹事/新谷</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会長外部会議出席 デンソー岩手発足式(10月1日) 来賓として出席 産廃協会理事会 現在のクリーンセンターは震災瓦礫処理場の為あと10年くらいしか余地がない。新処理場は県が主体で整備。今年度中に各市町村から選定用地を推薦してもらう。</li> <li>2. 年末講演会について(12月11日(火)) 盛岡農業高校、盛岡工業高校の研究発表。発表後に生徒を交えての懇談会を企画する。</li> <li>3. 第69回会員懇談会について 懇談会テーマ「未定」 食糧・水問題を地球規模で考えるのはどうか?あるいは盛岡の土産を考えてはどうか? 講演「演題未定」 (株)バイオマスパワーしずくいし 講師未定 講話「未定」 岩手大学に、会長から依頼する。</li> <li>4. 研修会について 参加者 15名(10月11日現在)、北上地区1社、一関地区2社 10月26日 8時30分 盛岡駅前 D'グランフォート前集合、10時~11時 見学「東北佐竹製作所」、 昼食「あさひや」、13時30分~15時 見学「丸三漆器」、15時30分~17時 見学「三菱マテリアル岩手工場」 宿泊「矢びつ温泉 瑞泉閣」10月27日の予定については会長一任。会長は14時から発明協会行事出席予定。</li> <li>5. 岩手県立大学が行う就業力育成支援事業について IPU就業サポーター制度加入の依頼。資料回覧。11月12日第69回会員懇談会で資料配布。</li> <li>6. その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月27日 14時 発明くふう展表彰式 長岡会長(県工業クラブ賞)、山田副会長(盛岡工業クラブ賞)が出席。</li> <li>・11月28日 三陸の食を楽しむタベ ホテルメトロポリタン盛岡NEWWING。</li> <li>・北上川流域ものづくりネットワーク運営委員について、現在鷹木理事が担当、来年度の担当を1月までに決める。</li> <li>・滝沢村産業祭 木工教室への寄付 今年は日程前倒しによりタイミングがずれたために無し。</li> <li>・鑄造工学会全国講演大会(10月12日~15日) 見学コース 釜石行が希望者4名で断念。復興への興味の薄れか。</li> <li>・11月7日14時 岩手大学内コラボMIU5周年記念フォーラム 当クラブ後援 長岡会長挨拶の予定。</li> <li>・被災地の売店の様子。復興支援により人が来てくれる状況に慣れてしまっているのではないか。</li> </ul> </li> </ol>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(理事会)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
理事会	第8回	<p>◆開催期日 2012年11月12日</p> <p>◆開催場所 ホテルエース盛岡</p> <p>◆参加者 15名</p> <p>◆実施内容・議題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告事項</li> <li>・第69回会員懇談会</li> <li>・年末発表・忘年会について</li> <li>・第70回会員懇談会について</li> </ul>	<p>出席者 三役/加川・林・工藤・山田          理事/藤澤・児玉・大見山・鷹木・照井・吉田・坂井・千田・工藤(朋) 幹事/新谷、小山</p> <p>1. 報告事項          10月26日～27日 県内視察研修 北上・一関地区          11月7日 岩手大学地域連携フォーラム in 盛岡2012 加川副会長出席          10月27日 第48回岩手県発明くふう展表彰式 山田副会長出席</p> <p>2. 第69回会員懇談会          担当：大見山・小山 受付：林・照井 記録：工藤(朋) 写真：藤澤          懇親会 乾杯：滝沢村村長 柳村 様 中締：盛岡広域振興局 中居 様          懇談会テーマ「新たな盛岡周辺の魅力発見と新盛岡土産について」          PR「小岩井農牧株式会社事業概要」 小岩井農牧株式会社 取締役経営開発室長 辰巳 俊之 様          講演「畜産バイオマス発電事業について」(株)バイオマスパワーしずくいし 代表取締役社長 古川 齊司 様          講話「「おい」と臭覚コミュニケーション研究の現状と展望」 岩手大学農学部応用生物化学課程 准教授 山下 哲郎 様          PR「いわてデジタルコンテンツ産業育成プロジェクト発足」「三陸の食を楽しむ夕べ(11月28日)」 盛岡広域振興局          会長の外部出席状況報告は会長不在のために省略。懇談会のグループ分けは A-Dの4テーブル。</p> <p>3. 年末発表・忘年会について          担当：鷹木、藤澤          次第案 15時 理事会 15時50分 ティーパーティ(高校生と懇談) 16時30分 年末発表会 18時10分 忘年会          講演は行わず、盛岡農業高等学校及び盛岡工業高等学校の生徒による発表とする。          高校生との懇談について、参加者は工業クラブ理事、テーブル分けについては参加者の状況を見て決める。</p> <p>4. 第70回会員懇談会について          担当：中村、寺田          講演：(経済関係) 講演者案 日経新聞 水庫 記者、岩手経済研究所 谷藤主席研究員 →12月理事会で決定する。          鏡開きを行う</p>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(理事会)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
理事会	第9回	<p>◆開催期日 2012年12月11日</p> <p>◆開催場所 ホテル味ナリ盛岡NEW WING</p> <p>◆参加者 13名</p> <p>◆実施内容・議題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長岡会長の体調について</li> <li>・年末忘年発表会について</li> <li>・第70回会員懇談会について</li> <li>・その他</li> </ul>	<p>出席者 三役/加川・林・工藤・山田          理事/藤澤・吉田・福勢・照井・寺田・千田・工藤(朋) 幹事/小嶋・小山</p> <p>1. 長岡会長の体調について          12月検査入院、1月自宅療養の予定</p> <p>2. 年末忘年発表会について          担当：鷹木・藤澤 受付：加川・水戸谷 記録：工藤(朋) 写真：照井          挨拶：山田副会長(長岡会長の現状報告を兼ねて)          乾杯：盛岡広域振興局 菊池正佳 局長 中締：盛岡市子ども科学館 竹田 紀男 館長          次第 14時30分 理事会 15時50分 ティーパーティ(高校生と懇談) 16時30分 年末発表会          18時10分 忘年会          ティーパーティ 開会挨拶は山田副会長 各高校生及び理事のテーブル分けを行った。          理事はそれぞれ名札を持って席に。自己紹介後は自由に懇談することとした。          発表内容 「小学校出前事業について」盛岡工業高校工業化学科生徒          「ロボット製作について」盛岡工業高校電子機械科生徒          「シルクロード第2章 眉の魅力に迫る 養蚕業の活性化を目指して」盛岡農業高校生徒</p> <p>3. 第70回会員懇談会(1月11日)について          講演について、岩手銀行本店に打診中。岩手経済研究所は有料(3万円)のため見合わせ。          講話 岩手県立大学吉本先生に依頼中。工藤(朋)理事が問い合わせ。          懇談は実施しない。年始の忙しい時期であり、会員の拘束時間を少なくし出席しやすくするため。          鏡開きは例年通りに実施</p> <p>4. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年賀状について、年賀状ソフトおよびリストが見つからない。会員については作成せず。会員外については頂いた場合にお返事をする。</li> <li>・北上川流域ものづくりネットワーク担当者について、本年度は鷹木理事、来年度は照井理事が担当する。</li> <li>・県工業倶楽部主催 岩手県知事との懇談会(1月16日) 山田副会長出席予定。              メールやホームページで希望者を募り、事務局でとりまとめを行う。</li> <li>・ILC関連の技術講演会(12月22日 15時30分 ホテル東日本)メールやホームページで案内</li> <li>・盛岡市工業振興懇話会出席について、年明けに山田副会長から概略を報告する。</li> </ul>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(理事会)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
理事会	第10回	<p>◆開催期日 2013年1月11日            ◆開催場所 ホテル味'リ'盛岡NEW WING            ◆参加者 15名            ◆実施内容・議題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長岡会長について報告</li> <li>・県工業クラブ 知事との懇談会について</li> <li>・盛岡市キャリア教育推進委員会</li> <li>・Mtech運営委員について</li> <li>・盛岡工業クラブ事務局について</li> <li>・新年会について</li> <li>・第71回会員懇談会について</li> <li>・その他</li> </ul>	<p>出席者 三役/加川・工藤・山田            理事/藤澤・水戸谷・児玉・鷹木・中村・菅原・大見山・大澤・坂井・寺田・工藤(朋) 幹事/小山</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 長岡会長について報告              12月23日になくなってから現在までの経緯について山田副会長より報告              支出：死亡広告 159,600円、香典 10,000円、生花 15,750円について、承認した。              盛菱の社長には、同社取締役の田鎖様が就任したことを報告。</li> <li>2. 県工業クラブ 知事との懇談会について              加川、山田、中村の理事3名が懇談会から出席予定。出席費用は各社負担とする（過去の支払例を確認する）。              県工業クラブへの出席担当者について今後考えることとした。</li> <li>3. 盛岡市キャリア教育推進委員会              1月22日 盛岡工業クラブから副会長が出席。担当者はこれから調整する。</li> <li>4. Mtech運営委員について              2月21日 M-tech運営委員会。入居企業の会計内容も知ることになるので広域法人の会員の担当とする。              今期は加川副会長が担当。</li> <li>5. 盛岡工業クラブ事務局について              会計決済は会長が行っていたが、今後をどうするか。1月分会計までは山田副会長が決済することを承認。              今年度分の会計が未入力。本クラブ専用の会計ソフトを購入する。予算は1万円くらいで事務局にお任せする。              今後も盛菱に事務局がおけるかはわからないが来年1年は委託したい。</li> <li>6. 新年会について              担当：寺田・中村 受付：工藤・水戸谷 記録：工藤(朋) 写真：藤澤 会長挨拶：山田副会長              講演「2013年 日本景気・財政と為替のポイント」野村證券株式会社盛岡支店 支店長 東 英憲 様              講和「学内カンパニーで地域貢献」岩手大学工学部ものづくりEF起業家支援室 特任教授 佐藤 秀雄 様              鏡開きは中止、乾杯や献杯は行わない。懇親会のはじめに経緯の報告と黙祷を行う。中締：滝沢村 柳村 村長</li> <li>7. 第71回会員懇談会について              担当：林・水戸谷              開催日が3月11日では都合がつかない企業が多いことが予想され、3月12日の日程が提案され、承認された。              講演 復興関係をテーマにしたい。建設系、新事業系、心のケア系が考えられる。建設系として会員である              鹿島建設、大和ハウス工業の発表ではどうか。→担当理事で相談し、2月理事会で報告することとした。              講和 岩手県立大学 吉本先生に以来              懇談会テーマ 自社PR（1社10～15分、6社程度）ではどうか。次回理事会で検討する。</li> <li>8. その他             <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員アンケートについて 内容は昨年と同様とすることが了承された。                  締切は2月25日あたりとする。意見があれば事務局まで連絡を頂く。</li> <li>・OB会リストの作成について、頂いた年賀状から作成する予定だったが、年賀状がなかったため見送り。</li> <li>・総会について、会長業務については副会長4名で負担する。会長職については5月総会で決定することを了承した。</li> <li>・研修旅行については3月理事会で考えることとした。</li> </ul> </li> </ol>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(理事会)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
理事会	第11回	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2013年2月12日</li> <li>◆開催場所 ホテルエース盛岡</li> <li>◆参加者 17名</li> <li>◆実施内容・議題等               <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部出席状況</li> <li>・第71回会員懇談会について</li> <li>・その他</li> </ul> </li> </ul>	<p>出席者 三役/加川・林・山田            理事/藤澤・水戸谷・吉田・福勢・鷹木・照井・中村・菅原・坂井・吉田(大見山)・大澤・寺田・工藤(朋) 幹事/小島</p> <p>1. 外部出席状況            盛岡市キャリア教育推進委員会 1月22日 山田副会長出席。            県工業クラブ 知事との懇談会 1月26日 加川副会長、山田副会長、中村理事 出席            盛岡少年少女発明クラブ表彰式 2月3日 山田副会長、工藤副会長 出席            皆勤賞5名に 盛岡工業クラブから3,000円相当の工具セットを贈呈。発明クラブホームページ参照。            発明表彰について、全国表彰が2件ほど出るかもしれないとのこと。            →外部出席状況について記録を盛岡工業クラブwebページに掲載予定</p> <p>2. 第71回会員懇談会について            3月14日 14時から 担当:林・水戸谷 会場:ホテルエース盛岡            講演 鹿島建設 嘉本所長、大和ハウス工業 新谷所長 の2名。30分ずつ。鹿島建設としては、復興はまだこれからの部分もあり現在話ができる範囲でお話いただく。大和ハウス工業は仮設住宅について。            講話 岩手県立大学 伊藤 憲三 先生。「テーマ未定」脳科学、信号処理について。            懇談会テーマ 講演の中心は復興ではない。復興だけをテーマに話し合うのではないようにしたい。            「震災後2年間、あるいは今後の各社の活動について」ここの思いや提言を交えつつ話し合うことにした。</p> <p>3. その他            M-tech運営委員会 2月21日、3月26日 加川副会長出席予定 2月21日は入居企業2社の入居延長申請の審査。            長岡会長お別れ会 2月25日 13時~16時 メトロポリタン盛岡本館 県工業クラブ主催            平服で参加。祭壇に献花。軽食とのみのもを用意。香典などは辞退するが故人の震災復興へかける思いを形にし、1人1,000円を頂戴して震災復興のため寄付をする。会員へは15時くらいからの来場を呼びかける。            岩手県工業クラブ臨時総会 2月25日13時30分から 一般社団法人化に際しての書類が長岡会長名になっているので総会を開いて変更する必要がある。山田副会長が出席することを連絡済。            ・盛岡工業クラブ事務局について 盛菱さんの会員は維持するが理事は降りられるものと考え。            来年度1年間は事務局をお願いする。事務局に保管していた資料も整理が必要。            ・第3回北上川流域ものづくりネットワーク運営委員会 鷹木理事出席予定            ・会員アンケートについて、2月25日(月)締め切りで配布。会長の選任についても意見を求める。            ・総会について、5月13日(月)メトロポリタン盛岡 担当:吉田・石塚            ・研修旅行について 会員アンケートに、時期および見学先の記入欄があるので意見を出してほしい。            ・会員の移動 第一開明(株)社長交代に伴い、今年度で理事退任希望。会員は維持。            ・長岡会長の後任について、理事に自由な意見を求めた。            ・三菱電機セミナー案内 2月14日</p>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(理事会)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
理事会	第12回	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2013年3月14日</li> <li>◆開催場所 ホテルエース盛岡</li> <li>◆出席者 17名</li> <li>◆実施内容・議題等               <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告事項</li> <li>・会員アンケートについて</li> <li>・第71回会員懇談会について</li> <li>・第13回総会について</li> <li>・退会希望について</li> <li>・来年度理事会について</li> </ul> </li> </ul>	<p>出席者 三役/加川・林・工藤・山田 理事/藤澤・寺田・水戸谷・大見山・大澤・吉田・福勢・鷹木・照井・鈴木・坂井・工藤(朋) 幹事/新谷</p> <p>1. 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長岡会長お別れ会 2月25日 岩手県工業クラブ主催 同日に県工業クラブ臨時理事会 山田副会長出席。 一般社団法人化移行に伴う定款の一部変更(代表理事名) 長岡秀征→谷村久興 異動に伴う幹事選任 2名 ユアテック中山支社長 東北紙器小林社長</li> <li>・M-tech運営委員会 入居延長申請 延長可の判断。ビジネスモデルができてきている部分で質問あり。次回は欠席。</li> <li>・第3回北上川流域ものづくりネットワーク運営委員会 2月27日鷹木理事出席。進捗確認と来年度計画案審議。</li> </ul> <p>2. 会員アンケートについて</p> <p>回答 28会員/60会員中(3月11日現在。回答率47%) 会員同士の懇談、外部講師によるセミナー、見学会(トップ3はいつもどおり) 自由な意見交換、交流による人脈紹介、地域課題の懇談などの回答が多かった。参加の少ない会員へ出席の働きかけをしたい。参加を促すために時間を短くしてはどうかとの意見あり。</p> <p>3. 第71回会員懇談会</p> <p>担当: 林・水戸谷 受付: 加川・照井 記録: 工藤(朋) 写真: 工藤 懇親会乾杯: 滝沢村 柳村 村長 中締: 盛岡市 沼田 課長 懇談会テーブル分け 5テーブル。 挨拶 山田副会長 講話「居大脳と微小脳~ヒトの脳は賢くて虫の脳は賢くないか~」岩手県立大学ソフトウェア情報学部教授 伊藤 憲三 様 講演「3. 11 震災大津波被害復旧から復興へ(建設業として)」鹿島建設株式会社東北支店 盛岡営業所長 嘉本 孝志 様 「応急仮設建設物への取り組み」大和ハウス興行株式会社岩手支店 建設営業所所長 新谷 聡 様 懇談会テーマ「震災後2年間と今後の各社の活動について」</p> <p>4. 第13回総会について</p> <p>担当 石塚理事・菅原理事。新理事、三役については4月理事会で草案を決定する。 林副会長は異動予定。後任は副会長ではなく理事としたいと申し出あり。 第一開明吉田理事、盛菱田鎖理事の2名は平成24年度をもって理事退任予定。 補充する理事について、理事会での推薦は2名。小山田工業所 小山田会長、電商 斉藤専務。本人に打診してみる。 会計監査については事務局と日程を調整。幹事/小山・新谷 4月下旬に予定 15時ころから開始し、懇談のみとすることを決定した。テーマは次回理事会で決定する。 議長、活動報告の担当については4月理事会で決定する。総会以後の当番表は新理事を決めてから見直すこととする。 活動実績一覧表はwebに掲載するために今回は省略する。表紙のビニールの装丁は行わない。</p> <p>5. 退会希望について</p> <p>4会員が退会希望、また現在参加のない2会員も含め、平成25年期首会員数は54会員の見込み</p> <p>6. 理事会について</p> <p>本年度同様、月一回の開催とすることを確認した。</p>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(懇談会)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
懇談会	第66回 会員 懇談会	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2012年5月11日</li> <li>◆開催場所 村山県庁 1F 盛岡NEW WING</li> <li>◆参加人数 42名</li> <li>◆実施内容・議題等 「新事業の夢を語る」</li> </ul>	<p>Aテーブル……長岡、加藤、菊池、米谷、鈴木、福勢、藤澤、竹田            進行：長岡 発表：藤澤 記録：藤澤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海水は大量にあるのでこれを活用できないか。</li> <li>・土地もあるから薬草を栽培するのも良いのではないか。</li> <li>・医療の分野で臓器培養技術に取り組んではどうか。</li> <li>・においが出るテレビは出来ないものか？</li> <li>・IT技術を駆使して海産物を映像と共にPRしたり、インターネットサイトで資金を募る支援活動もある。</li> <li>・同じタイヤが普通タイヤからスパイクタイヤに変形したり悪路で車高が高く変化する車の実現できないか。</li> <li>・夜も開いている科学館の企画をしたい。</li> <li>・滝沢村の新しい特産品開発に取り組みたい。</li> <li>・村へのリピータが生まれるようなまちづくりに取り組みたい。</li> <li>・沿岸により早く商品を届ける仕組み作りをしたい。</li> <li>・入浴設備に加えて、マッサージ器を導入するなどのリラックスできる工夫をしたい。</li> <li>・事業拡大は良いが川の流れの様に清流も大河となると汚れが進みやすい。清流を保つことに留意すべき。</li> </ul>
			<p>Bテーブル……寺田、工藤、佐藤、栗橋、熊谷、加川            進行：寺田 発表：工藤 記録：加川</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米、酵母、麴といった原料の開発も自ら手がけることで、技術を磨いていきたい。</li> <li>・従来のようにインフラを直すだけではなく、東北への移住が増える魅力あるまちづくりをしたい。</li> <li>・平泉は仙台を経由したお客様が多い。広域観光ができる仕組み作りをしたい。</li> <li>・観光課の仕事は、今までのイベントをすること自体が目的となっている。地域活性化の為にという視点で、新しいことに取り組んでも良いと思う。</li> <li>・観光地のおもてなしが大切。旅行先では自分が接した人の印象が大きい。</li> <li>・今は何が売れるか分からない。以前はお茶や水が商品になるとは考えられなかった。</li> <li>・健康によい飲料を地産地消でできないか。</li> <li>・電力について、自家発電の買い取りが増えれば国民の負担として帰ってくる。また、自然エネルギーを増やすのであれば送電線の容量を増やす必要がありコストがかかる。</li> <li>・電力が無ければ産業は成り立たない。</li> <li>・国内産業が空洞化する前に、国は何らかの方針を示し、国民が選択することが必要だ。</li> </ul>
			<p>Cテーブル……菊池、星、井上、中崎、照井、中村            進行：照井 発表：中村 記録：中村</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鋳造りのノウハウで、医療分野に進出したい。いま国内では海外製品を使い捨てしている。現場で是非良い製品を使ってもらいたい。</li> <li>・運送業を軸足にして、海外向けに衣食住に必要なものを運ぶ仕事をしたい。</li> <li>・印刷業を大切にしつつ、新しい事に取り組みたい。</li> <li>・リーマンショック以降業界としては40%縮小したが、室町時代からはじまった仕事でなくなることは無いと考えている。コストではなく品質の向上で勝負したい。</li> <li>・新しい事としては、ウェブデザイン・情報伝達系の仕事を次世代に託す。</li> </ul>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(懇談会)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
懇談会	第66回 会員 懇談会		<p>(Cテーブル続き)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木材はリーマンショック以降ペーパーレス化で動きが良くない。建材(A材)、紙などの原料(B材)とありA材として良いものが求められていたが、福島原発事故の影響で海外(特に中国)で需要減。新しい文化が生まれると木材利用の可能性は広がる。</li> <li>・エネルギー源としてバイオマスを活用してはどうか。</li> <li>・エネルギーも分散すべき。暖房(熱)は電気だけでなく良い。震災契機に考えがリセットされた。</li> <li>・内陸中心に新事業を興し、沿岸の復興を担うべき。今は新事業を興すにはチャンス。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2012年5月11日</li> <li>◆開催場所 村外味<sup>®</sup> リオ盛岡NEW WING</li> <li>◆参加人数 42名</li> <li>◆実施内容・議題等 「新事業の夢を語る」</li> </ul>	<p>Dテーブル……漆真下、山田、石坂、藤原、渡辺、新谷 進行：山田 発表：新谷 記録：新谷</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワイン、ブドウを利用して、沿岸被災地と連携した新しい調味料開発をする。</li> <li>・町の各拠点に太陽光発電施設を完備。電気自動車しか入れないようなエリアを設けるなど電気自動車導入促進、環境配慮型の特徴の有る街づくりをしていきたい。</li> <li>・住宅建設の端材活用(木屑のブリケット化など)を考えているが、この実用化や外販を目指したい。</li> <li>・植物工場、リチウムイオン電池などの事業に進出している。</li> <li>・文学を利用して盛岡を発信したい。モリブロ(注1.)などの取り組みも始まっている。</li> <li>・施設指定管理者になって2年目。フリーペーパーを発行するなど新しい取り組みを始めている。来年30周年を迎える。他の施設とも連携して発展していきたい。</li> </ul> <p>(注)モリブロ…盛岡の本のイベント。5月12日~6月3日まで。公会堂が主会場。桜山神社では古本市が行われる。 <a href="http://moriburo2012.blog.fc2.com/">http://moriburo2012.blog.fc2.com/</a></p>
			<p>Eテーブル……工藤、坂井、斉藤、林、中居、吉田 進行：工藤 発表：坂井 記録：坂井</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災のガレキ処理についてはその7割は県内で可能。協同企業体で、できる限り県内で行いたい。</li> <li>・ガレキ処理後、再利用することを考えられないか。(炭づくりなど)</li> <li>・LEDのさらに次の世代の照明が発表された。目に優しく、虫が集まらない。</li> <li>・工業クラブの会員企業で新事業を考えるような企画を提案していく。</li> <li>・工芸品とお酒をセットで販売していくのはどうか。</li> <li>・平泉とタイアップした工芸品を商品化できないか。</li> <li>・IT企業を自動車産業と結びつける試みが既になされているが、食とITを結びつけるのはどうか。</li> <li>・商品として物を売るだけでなく、デザインなどをデータの形で売ること考えていきたい。</li> <li>・盛岡の映画祭をもっと盛り上げていきたい。</li> <li>・海水を良くするプロジェクトがあり、沿岸での養殖事業を活性化させることができる。</li> <li>・地中熱エネルギーを農業にも活用したい。</li> <li>・セシウム除去は、大きな事業になる可能性がある。</li> <li>・盛岡駅構内のロッカー少ない。工業クラブで設置して事業化?</li> <li>・沿岸復興のイベント事業を立ち上げてはどうか</li> <li>・海の中のガレキ引き上げ・処理も考えなくてはならないが、これが新事業にならないか。</li> <li>・インターネットで防災グッズの販売をしてはどうか。</li> <li>・新渡戸稲造生誕150周年記念の企画事業化、「武士道サミット」などを開催してはどうか。</li> </ul>



# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(懇談会)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
懇談会	第67回 会員 懇談会		<p>Aテーブル……長岡、中村、谷崎、坂井、千田、藤澤、山田            進行：長岡 発表：中村 記録：中村</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・照明のLED化については、器具の価格が高く、単価が下がっている中で様子を見ている状況。一気の切り替えではなく、個別対応で徐々に。</li> <li>・蛍光灯の間引き点灯は各社で実施。点灯場所・時間の制限もしている。</li> <li>・エアコンの設定値見直しは定常化。ガスヒートポンプ式エアコンへの切り替えもある。LPG使用時のバルク供給検討もコストダウン効果あり。</li> <li>・エアコン室外機の冷却で効率アップする。</li> <li>・自宅においての節電で、明るいうちの入浴も効果あり。</li> <li>・社屋の改造で効果的なものは、断熱フィルム、開口部・窓の配置見直しでの通風改善。</li> <li>・勤務シフト変更・輪番制・ノー残業DAY設定があるが、マネージャの負担増などの課題がある。</li> <li>・パソコンでは、スリープ機能設定のマニュアル化でバラツキ防止。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2012年7月11日</li> <li>◆開催場所 村外味(リ)盛岡NEW WING</li> <li>◆参加人数 27名</li> <li>◆実施内容・議題等 「省エネに対する取り組みについて (昨年の体験)」</li> </ul>	<p>Bテーブル……林、加川、寺田、熊田、工藤朋、中居、菊地            進行：林 発表：加川 記録：工藤朋            電力への多大な貢献に感謝。(加川)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北東北3工場で15%の節電達成。事務室のクーラ止め、こまめな節電。休日シフトの変更。緑のカーテン(ゴーヤ)実施。A重油の価格変動影響大きい。1円で年300万円。</li> <li>・こまめな節電。冷蔵コンテナの冷却ユニット交換。電灯系で10%、工場系で30%の節電だが、トータルでは10%強の節電効果か。</li> <li>・今年に入って節電意識が少し後退した感じ。</li> <li>・冷暖房機の設定温度変更。クールビズ推奨。医療系の節電難しい。会議系の長時間化は、望ましくない。</li> <li>・従業員は家族持ちのほうが節電意識が高い。</li> <li>・使用電力料について、過去3年分のデータは閲覧可能。参考にしてほしい。</li> <li>・電気代が年間数億円。去年は増産期と重なり困った。個人は、こまめな節電、会社は発電機(強気の6ヶ月レンタル)とシフト変更でピークカット。</li> <li>・平日の休みもたまには良い。</li> <li>・仕事量少なく節電をする機会なし。太陽光発電ユニットを検討したい。</li> </ul>
			<p>Cテーブル……工藤、井上、外川、小山、福勢、照井            進行：工藤 発表：井上 記録：井上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動販売機は、およそ12:00~15:00の時間帯は冷却機停止。こまめなタイマー設定で省エネ可能。24H対応のコンビニとの競争。</li> <li>・PCの発熱に我慢。自然換気と扇風機活用。明るい事務所で自然照明を活用。PCのこまめな節電も実施。</li> <li>・冷暖房の温度設定見直し。LED化推進。風力発電で夜に蓄熱。太陽光発電の導入検討中。分析機器の電気消費多く今後改善。</li> <li>・仕事場所の集約化を図った。カーテン、断熱シート、仕切りの新設などで冬場に3℃改善。足元の冷えがなくなった。</li> </ul>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(懇談会)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
懇談会	第67回 会員 懇談会	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2012年7月11日</li> <li>◆開催場所 村山味<sup>®</sup>リノ盛岡NEW WING</li> <li>◆参加人数 27名</li> <li>◆実施内容・議題等 「省エネに対する取り組みについて (昨年の体験)」</li> </ul>	<p>(Cテーブル続き)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加工機械のウォームアップ時間は要求加工精度によって時間短縮。</li> <li>・起動時電力を下げる事が重要。冷房温度など高い設定から徐々にさげることで改善する。</li> <li>・一括供給よりは、必要な場所に近いところから供給するのがベター。</li> <li>・先人の知恵に学ぶべきところが多い</li> </ul> <p>(以下余白)</p>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(懇談会)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
懇談会	第68回 会員 懇談会	<p>◆開催期日 2012年9月11日</p> <p>◆開催場所 ホテルエース盛岡</p> <p>◆参加人数 19名</p> <p>◆実施内容・議題等 「盛岡広域定住人口を増やすためには」</p>	<p>出席者が少なく、1テーブルで行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス等で交流人口は増えていくが、定住人口はどうすれば増えていくか。働き盛りの世代など、県央よりも県南が多い。特に北上など。</li> <li>・魅力のある地域でなければ、定住人口は増えない。魅力のある地域にするためには、何をすべきか？情報はインターネットで入る。東京と同じではなく盛岡らしさを活かした街づくりをすべきだ。</li> <li>・転勤族は「盛岡は遠い、田舎」というのが第一印象だが、盛岡を離れる際には「こんな良い街はない」と思う。開運橋を二度泣き橋と呼ぶ。人情、人の心。盛岡には都会と異なる「らしさ」「良さ」がある。</li> <li>・待遇、給料格差 よりも人情を選ぶ人もいる。</li> <li>・高齢化の課題もある。滝沢村が滝沢市になるが、盛岡市に劣らず高齢化が進んでいるのが課題だ。</li> <li>・10年間から矢巾町民。</li> <li>・人口は年々減少、矢巾町と滝沢村は増えている。(以前は金ヶ崎町も増えていたが)</li> <li>・何で矢巾町が増えているかということ、盛岡のベッドタウンに加え岩手医大に学生、職員が移転してきた。</li> <li>・工業団地に、町長のトップセールスで企業誘致している。産業がないと人は増えない。</li> <li>・盛岡に赴任して3年目。(盛岡は二回目、秋田出身)</li> <li>・盛岡のイメージは「商業都市」。工業系は北上地区 というイメージを持っていた。</li> <li>・農業、林業も重要だが、人が増えるのは工業。大量の人員が動く。</li> <li>・盛岡市というよりも、その周辺で増えていく傾向がある。とすれば盛岡は、という妙案はない。市の人からは「中心部は減っていない」と聞いたことがあるが・・・</li> <li>・盛岡にはカワトクという百貨店があり、商店街が残っている。住みやすい街だと、漠然と思っている。これ以上増やすためには、産業が必要。</li> <li>・盛岡にはマンションが多い。駅周辺に高層マンションが立ち並び、東北では珍しい。どんな人が住んでいるのか？工業系の人ならば、駅前でもなくても良いのだが。</li> <li>・今日皆さんの話を聞いて、自分・会社で何ができるのか考えたい。</li> <li>・自分の山の管理ができない。後継者がいない。</li> <li>・勝手に山に入るわけにはいかないので、お子さんやお孫さんが近くにいと良い。その土地に代々住んでもらわないと、山は管理できない。</li> <li>・住宅着工数が減少してきた。若い方は町中に定住(マンション等)してほしい。</li> <li>・土地が高いのでマンションが増えてきたのでは。また、郊外の団地(昭和40年代)は近隣に産業がなく、世代が変わって人が減ってきた。高齢化に伴い、市内のマンションに移り住んできている。</li> <li>・盛岡は比較的人口が減らない。必要性に伴って、商店街も残っている。</li> <li>・青森や秋田に比べると、盛岡は暮らしやすい。仙台も広域を見ると、旧市街地は人が減少している。</li> <li>・盛岡は狭いエリアに人、商業が固まっていることが、住みやすさとなっている。</li> <li>・人を呼び込む施策、バランスよく人を増やすには、商業、工業、農業すべて必要。いろんな産業から人を呼び寄せる必要がある。</li> <li>・盛岡に住むきっかけになるのは、生活の糧となる「仕事」が重要。</li> <li>・盛岡は、歩けば必要なものはすぐに手に入る状況だったが、最近は店が郊外化してきた。食料品は手に入りやすいが、その他の生活用品は手に入りにくくなった。</li> <li>・人情があるのが盛岡の良いところ。住んでいる人はそれを自覚していない。県外の人は感じている。</li> <li>・盛岡出身で高校までいた。その後点々としている。</li> </ul> <p>(次頁に続く)</p>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(懇談会)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
懇談会	第68回 会員 懇談会	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2012年9月11日</li> <li>◆開催場所 ホテルエース盛岡</li> <li>◆参加人数 19名</li> <li>◆実施内容・議題等 「盛岡広域定住人口を増やすためには」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手大学、県立大学、その他各種専門学校などがある。盛岡は就学層が増えており、学徒の街としての位置付けができていられる。</li> <li>・被災地では「なりわい」の再生。盛岡の定住人口を増やすためにも、「なりわい」の再生が必要では。</li> <li>・子供の数、県南が多い。子育て世代、県南は少ない。</li> <li>・付加価値の高い「なりわい」が定住人口を増やしていく。</li> <li>・製造業（車のナビゲーション、カメラなど）</li> <li>・昨年度は震災の影響を受けたが、何とか凌いできた。今年度はタイの大洪水の影響によって200人増員しなければならなかったが人が集まらない。宿泊施設を用意し県外から人を集めた。</li> <li>・地元に戻ってきたい若い世代に対して、職場がない。産業が少ない。</li> <li>・住みやすさ、子育てに優しい、子育ての助成金、援助などがあると良い。</li> <li>・生まれが花巻。盛岡の1/3の人口でマンションは2棟、田舎だ。</li> <li>・盛岡、人口に見合った新規の産業をつくっていかないと、若い人が定住しない。</li> <li>・物づくりは、台湾、韓国などが活発。日本の物づくりの再生を東北中心に。</li> <li>・東南アジア等との流通で人が増えてきた。盛岡には港が無く海外との物流拠点にはなりにくい。</li> <li>・しかし、地の利を活かし、東京との物流拠点にはなる。セブンイレブンが秋田に進出してきたが、物流拠点は盛岡にしていると聞いている。秋田、山形、青森に向けた拠点となりうる。</li> <li>・オフィス、工業、流通センターなどの拠点として活かすことができればと思う。</li> <li>・高齢層が多く、福祉の問題がある。老人も集まればビジネスチャンスが生まれるのでは。</li> <li>・自分は仕事の都合で各地を転々としてきた。</li> <li>・娘が東京の学校に行き就職で盛岡に戻ってきた。東京で彼氏をつくり今は結婚して滝沢に住んでいる。仕事があるからこそ、実現したことだ。仕事があることが重要。</li> <li>・単身赴任で来ている。盛岡は住みやすいが、仕事がない、稼ぐ場所が少ない。家を建てたいが高い。</li> <li>・社員を見てみると、盛岡在住者は少ない。企業を誘致することが重要。</li> <li>・滝沢村の会合に出ているが、盛岡を含め何で雇用をしていくか、ビジョンがないと感じている。</li> <li>・行政がもっと考えていかないと、一個人、一企業では力が及ばない。</li> <li>・国の農業試験場があるが、この土地があるので盛岡は北に広がっていかないのでは。</li> <li>・民間に払い下げていけばよいのでは。</li> <li>・城下町、宿場町の違い。盛岡＝城下町はよそ者を入れない。北上＝宿場町。</li> <li>・企業誘致は、土地、人、水が安い というのが条件。</li> <li>・社員に「盛岡転勤」というと喜んでいく。居心地がよいが盛岡はよそ者を受け入れない。平泉も同じ。</li> <li>・定住人口を増やすためには、企業を誘致するのはスタンダードな方法。更に、地場産業を盛り上げることも必要。地場で物を作るのは簡単だが売ることが重要。買う人がいなければ産業は盛り上がらない。</li> <li>・盛岡は土地が高い、平泉は安い。盛岡は高い土地、安い水を活かした産業の誘致を考える必要がある。</li> <li>・盛岡市は去年人口が増えている。県内から。一関市も増えている。県外から。</li> <li>・若い人が住むには家賃が高い。若い人の住みやすさと雇用が必要。</li> <li>・ただ盛岡にいる、ではなく東京などで経験を積んで帰ってきてくれると良い。</li> <li>・誘致企業、IT系を誘致しても人材を東京につれていかれる。</li> <li>・岩手の女性は魅力的、男性が追いかけてくる という事例をよく聞く。</li> <li>・全国各地に、定住者を増やすことに成功した事例があると思う。ポイントは、企業誘致、医療、教育、福祉など、多岐にわたる。</li> <li>・成功事例を参考に、盛岡で誰かが旗を振りアクションプランを作って動かなければ人は増えないと思う。(次頁に続く)</li> </ul>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(懇談会)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
懇談会	第68回 会員 懇談会	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2012年9月11日</li> <li>◆開催場所 ホテルエース盛岡</li> <li>◆参加人数 19名</li> <li>◆実施内容・議題等 「盛岡広域定住人口を増やすためには」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出身は山形、本社は仙台</li> <li>・地方都市は「人が歩いていない」というイメージがあるが盛岡は人が歩いていて活動が闊達と感じた。各地にも、いい文化、いい建物などがあったが、なくなってきた。</li> <li>・働く世代が定住しなければ人口は増えていかない。盛岡に魅力を感じてもらおう。</li> <li>・どうい街づくりを行うのかを考えていく必要がある。</li> <li>・矢巾は医大に関わる人が増えていく。少子化で人が減るものの、雇用の場は盛岡、子育て、教育等で現役世代を増やしていく。</li> <li>・商店街の活性化、シャッター通り商店街にしないように、次世代を育てていく必要がある。</li> </ul> <p>(以下余白)</p>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(懇談会)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
懇談会	第69回 会員 懇談会	<p>◆開催期日 2012年11月12日</p> <p>◆開催場所 ホテルエース盛岡</p> <p>◆参加人数 25名</p> <p>◆実施内容・議題等 「新たな盛岡周辺の魅力発見と盛岡 新土産について」</p>	<p>Aテーブル……加川、星、新谷、千田、相澤、水戸谷、坂井 進行：新谷 発表：坂井 記録：千田</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光について、新渡戸稲造、宮沢賢治、石川啄木などの偉人について、盛岡としてPRが少ない。</li> <li>・ぜひ見に来てほしいという感じがしない。一回見たら良いというところが多い。</li> <li>・市内よりも、市の外側のほうが観光のイメージがある。小岩井、平泉など。</li> <li>・食については、「ぜひ食べてもらいたい」というPRが足りない。地元でも食べたことのない人も多い。</li> <li>・お土産について、南部煎餅、わんこそばなどがあるが、ぜひ買って行ってほしいというものがない。</li> <li>・わざわざ買いに来たいと思う商品の開発が必要。お土産をセットにし重箱に入れるなどパッケージ・PRにも工夫を。</li> <li>・雫石にある、極楽乃のそば、松ぼっくりのジェラートなど良いところはある。</li> <li>・旧岩手銀行 中の橋支店を活用する方法を考えたい。</li> <li>・川の街でサケが遡上する、四季がはっきりしている等良いところがある。また訪れたい街を目指せないか。</li> </ul>
			<p>Bテーブル……林、中居、菊地、辰巳、阿部、鷹木、藤澤 進行：林 発表：中居 記録：藤澤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・着地型観光などへの取り組みをしてもいいのではないかと。食のネットワークも良い。</li> <li>・新しいものを作るよりも「地元のものが良い」と思ってもらう手法を考えてはどうか。</li> <li>・仕事で訪れたけれど、また家族で来たいと思われる街を目指したい。</li> <li>・ベンチマークを行いブランドイメージを作る。埋もれたものを掘り起こして磨きをかける取り組みが必要ではないか。</li> <li>・店舗が増えすぎて、全体としてクオリティが落ちる恐れがある。認定制度が必要かもしれない。</li> <li>・山形はいろいろなものがある一方で、盛岡はお土産に送り返すものがなかなか思いつかない。</li> <li>・盛岡のリンゴは美味しいので、贈り物に使うことが多い。</li> <li>・地元が良いと思っているものが、そのままブランドになる。その情報を知らせる仕組みがほしい。</li> <li>・台湾からのお客様は羊の帽子をお土産に良く買っていた、ということをblogで知った。</li> <li>・当たり前と思わずに、「誇り」と思えば、それがブランドになると思う。</li> </ul>
			<p>Cテーブル……古川、大見山、小山、児玉、谷崎、福勢、山田 進行：谷崎 発表：山田 記録：山田</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しいものを作らずに、セット商品・アレンジを企画するなど観光客の買いやすさを強化してはどうか。</li> <li>・誰を対象に販売するのかを考える必要がある。</li> <li>・買ってもらうだけでなく知ってもらうことも大事。</li> <li>・お土産をいただいたときの印象・イメージも重要。 デザイン（パッケージ含む）は手にとってもらう重要ポイント。</li> <li>・フェザン タバナクルの福田パンがツイッターで情報が広まり大人気だった。 その土地でしか手に入らないもの・限定品・手に入りにくいものは、欲しくなる。 ツイッターがものをいう時代で、若い人に引っ張ってもらう必要がある。</li> </ul>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(懇談会)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
懇談会	第69回 会員 懇談会	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2012年11月12日</li> <li>◆開催場所 ホテルエース盛岡</li> <li>◆参加人数 25名</li> <li>◆実施内容・議題等 「新たな盛岡周辺の魅力発見と盛岡 新土産について」</li> </ul>	<p>Dテーブル……吉田、工藤、工藤（朋）、小林、照井、池田、大坊          進行：工藤 発表：吉田 記録：工藤（朋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・盛岡は自然が豊か、人も良い、旧跡名所が豊かなので、もっとPRすればよいのではないか。</li> <li>・観光案内が足りないので強化したほうが良い。</li> <li>・岩手山、街中を流れる川、休み処が多いなど良いところが多いが知られていない。</li> <li>・土産には南部煎餅、そば、牛肉など良いものは多いが、どれか「これ」というようにひとつに絞れない。</li> </ul> <p>(以下余白)</p>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(懇談会)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
	第70回 会員 懇談会	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2013年1月11日</li> <li>◆開催場所 村山トホリック NEW WING</li> <li>◆参加人数 0名</li> <li>◆実施内容・議題等 実施見送り</li> </ul>	1月会員懇談会は実施見送りとした。
懇談会	第71回 会員 懇談会	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2013年3月14日</li> <li>◆開催場所 ホテルエース盛岡</li> <li>◆参加人数 30名</li> <li>◆実施内容・議題等 「震災後2年と 今後の各社の活動について」</li> </ul>	<p>Aテーブル（司会：加川、発表：照井、記録：山田、福勢、加藤、工藤（敏）、須川、菊池）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内陸におり、震災時の被害なし。</li> <li>・工場設立後40年。設備など陳腐化、人も高齢化。回収を考えると再投資は難しい。</li> <li>・今後は、固定費を徹底削減し、資産を持たない経営を模索。</li> <li>・従来の軽薄短小から、重厚長大なユニットものにも取り組む。</li> <li>・ものづくりからサービスに重点を置くアイデアがあるが、まずは十分なマーケット調査から。</li> <li>・新災害対策3本柱。サービスの早期復旧、通信網の確保、衛星電話準備台数増。</li> <li>・東北復興新生支援室で実施、タブレット端末利用で即時の情報共有化をはかる。</li> <li>・2010年から3年間で業績回復プロジェクトを実施。 東京へ独自セールスするも仙台に押されている。更なる官との連携強化必要。</li> <li>・復興にかかる人員の確保が課題。全国に働きかける。</li> <li>・次世代エネルギーの太陽光発電への対応も重点課題。</li> <li>・水質分析の短納期化が課題。</li> <li>・環境についての分析は、住民が安心安全な暮らしをするために重要。</li> <li>・中央からの東北進出が増え、競争激化。数年後の仕事を見極め体制を変える。</li> <li>・震災直後は、大停電の解消と供給量（+100万Kw）の確保、夏の計画停電発生防止に重点。</li> <li>・震災後の5重苦。「津波による設備消失、豪雨による水力発電所損壊29箇所、需要減 原発影響、原発稼働停止。」それにより、9000億円の費用増。 300億円の人件費減を含む800億円のコスト減でもまったく不足。 値上げできないと資本取り崩しで自己資本比率が10%を切り、企業運営も危うくなる。</li> <li>・今後の課題は、安定供給のための停止原発再開、値上げの了解を得ること。</li> <li>・太陽光発電設備は、国内生産品で20年間の発電保証を目指しているがコストダウンは難しい。 世界では太陽光パネルの余剰感があり、ヨーロッパ、中国からの輸入増。</li> <li>・スマートコミュニティーを提案。 岩手県内の電力自給率は、電力分で10%弱。その他もあわせ20%台と低い。</li> <li>・停電影響は、溶解設備を持つ工場ではとても大きい。 停電影響を受けにくい、復旧がしやすい設備にシフト中。</li> </ul>



# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(懇談会)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
懇談会	第71回 会員 懇談会	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2013年3月14日</li> <li>◆開催場所 ホテルエース盛岡</li> <li>◆参加人数 30名</li> <li>◆実施内容・議題等 「震災後2年間で 今後の各社の活動について」</li> </ul>	<p>Bテーブル(司会:水戸谷、発表:工藤(朋)、記録:工藤(朋)、工藤、中居、伊藤、嘉本、小嶋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会社自体は無事だったが、沿岸のお客様は全域で被災。その対応に当たっている。完全復旧までには後数年かかる。</li> <li>・中小企業か同友会では陸前高田自動車学校を拠点に地域に支援物資を配った。公平感よりも、できるところからの支援が必要。</li> <li>・震災時は大船渡勤務、内勤の立場から復興に取り組んだ。陸前高田のサポート調整も行った。</li> <li>・盛岡に来てからは産業振興の立場で風評被害への取り組みを行った。</li> <li>・復興が遅いのは原因がある。現地では慎重な議論を求める声もある。</li> <li>・建設業として、復興の行き先は流動的。短期低コストで可能な方法を提案していく。</li> <li>・高田の防潮堤は昼夜かかる大仕事。地元からは工事があることで復興を実感するとの声がある。</li> <li>・この2年はあわただしく記憶がない。学生の1割は自宅など何かしらの被災をした。</li> <li>・学生がボランティアで通信回線などの復旧を手伝った。</li> <li>・みらい創りサマースクールを企画。小中校生400人くらいが集まり震災を未来に伝えようとしている。</li> <li>・日本人のマンパワーのすごさを実感。三ヶ月間休み無く、全国から職人が集った。</li> <li>・復興が遅いのは行政の責任ではない。地域への復興需要が大都市に比べて小さいのも原因のひとつ。</li> <li>・仮設住宅を作業者の宿泊施設として使いたいのが制度上使えない。コストアップにつながっている。</li> <li>・総理の発言の通り、埋蔵文化財の調査をしている場合では無いと思う。</li> <li>・浄化槽を作ったものの排水先の水路の許可を近隣住民から得られずに困った。</li> <li>・民間は柔軟に対応できるが、官はそういうわけにはいかない。</li> <li>・復興対応は特例的対応が多く地方で決められる問題ではない。中央の力、復興局の役割が求められている。</li> <li>・今回は土地の確定に苦労した。資料が古い、土地も地震で動いてしまっている。</li> <li>・埋蔵文化財や野鳥保護なども障害になった。</li> <li>・単に住む場所の問題ではなく、産業も含めて考えなくてはならない。</li> <li>・今回の復興の問題の根本は、内陸である盛岡にも共通している。産業をどう育てて地域の力とするかこれ考えずに復興は難しい。</li> </ul> <p>(次頁Cテーブルに続く)</p>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(懇談会)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
懇談会	第71回 会員 懇談会	<p>◆開催期日 2013年3月14日</p> <p>◆開催場所 ホテルエース盛岡</p> <p>◆参加人数 30名</p> <p>◆実施内容・議題等 「震災後2年間で 今後の各社の活動について」</p>	<p>Cテーブル（司会：林、発表：吉本、記録：大澤、星、菊池、田鎖、坂井、新谷）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災時は、食料搬送、引越し、仮設資材搬送が同時進行。人も車も不足。</li> <li>・新幹線が脱線しない事に感動。</li> <li>・津波発生以前の風景写真を沿岸に送った</li> <li>・工場は2週で復旧。</li> <li>・セコムと契約の安否確認システムで従業員の安全確認がスムーズに出来た。</li> <li>・防災グッズの配布を行っている。</li> <li>・町内会の備蓄物を被災地に発送し感謝された。</li> <li>・対策本部立上げと従業員の安否確認が最初。</li> <li>・協力工場へのガソリン配布で感謝された。</li> <li>・発電機需要増で、広島の事業所は一時200%の稼働となった。</li> <li>・川上から川下までを考えての復興計画や実施を望む。</li> <li>・若者の就職先確保や既得権利の開放など色々な施策が必要。</li> <li>・大学は、自家発が完備されており、避難所として最適であった。</li> <li>・初動をどうするかを決めておく必要がある。</li> </ul> <p>キーワードは、「安否確認、備蓄、防災グッズ、BCP、衛星電話、顧客の喪失、燃料が入荷しない。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復興のグランドデザインをしっかりと決める必要がある。</li> <li>・新しい視点での町村合併、用地買収方法の模索、金に行き場について透明性を増すこと等も必要。</li> <li>・震災後は高級時計が売れた。</li> </ul> <p>(以下余白)</p>

# FY2010 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(監査・総会)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
監査会	会計監査	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2012年4月24日</li> <li>◆開催場所 株式会社盛菱</li> <li>◆参加人数 3名</li> <li>◆実施内容・議題等               <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度会計報告書を事務局より説明、監事より了承を得た。</li> </ul> </li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 財産目録</li> <li>2. 貸借対照表</li> <li>3. 収支計算書</li> <li>4. 領収書その他書類に関し、特に異議なく了承された。</li> </ol>
総会	第12回定期総会	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2012年5月11日</li> <li>◆開催場所 村山ホール リオ盛岡NEW WING</li> <li>◆参加人数 参加37会員、委任21会員</li> <li>◆実施内容・議題等               <ul style="list-style-type: none"> <li>・第12回定期総会を実施</li> <li>・平成23年度活動報告・決算の承認</li> <li>・平成24年度活動計画・予算等審議</li> </ul> </li> </ul>	<p>24年度総会は、副会長美和ロック(株)山田元盛岡工場長の司会によって、開会、定足数の確認に続き長岡秀征会長の議長で審議が始まり、加川副会長より原案の説明があった。</p> <p>→原案(1号議案から3号議案)を満場一致で可決、承認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆第1号議案 平成23年度活動報告、会計報告、収支計算書報告及び会計監査報告の件・・・原案通り承認</li> <li>◆第2号議案 平成24年度活動計画(案)及び収支予算書(案)設定の件・・・原案通り承認</li> <li>◆第3号議案 発議なし</li> </ul>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(講話)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
講 話	第66回 講 話	実施見送り	実施見送り
	第67回 講 話	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2012年7月11日</li> <li>◆開催場所 村山ビル リンNEWWING</li> <li>◆参加人数 33名</li> <li>◆実施内容・議題等 「大震災と被災動物救護活動」 岩手大学農学部付属病院長 教授 佐藤 れえ子 様</li> </ul>	<p>動物病院で診察するのは、伴侶動物(家庭飼育動物)と産業動物(畜産業で飼われている動物)。 今回は、伴侶動物に対する大災害の影響についてのお話。 人命救助優先の中で伴侶動物の支援は難しい局面があった。 移動診療車は効果あり。新車手配などで民間の支援金が生きている。 今後の活動も、獣医師会・動物愛護団体・支援ボランティア連携で被災地とともに進む。 現状の活動資金は、沿岸復興プロジェクトによる国の資金と民間の寄付による。 福島の警戒地域で放し飼いになっている野良動物については、国家問題化。 生体除染・去勢についても緊急課題。畜産業への復興支援が急がれる。</p>
	第68回 講 話	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2012年9月11日</li> <li>◆開催場所 ホテルエース盛岡</li> <li>◆参加人数 37名</li> <li>◆実施内容・議題等 「東日本大震災後の岩手における IT支援活動と必要とされる災害 コミュニケーションの課題」 岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 教授 村山 優子 様</li> </ul>	<p>海外では、ガス検針やゴミの収集などは、コストの安い民間企業へアウトソーシングしている。 メーターの計測は通信を利用。すると活動パターンが変わる。ガス会社等が情報会社へ変わる例がある。 海外には失敗を受容する文化がある。この文化が起業を促す。 東日本大震災では、被災地のインターネット環境、PC等の環境を整備することに取り組んだ。 ショッピングサイトのAmazonでは、Wishリストというものがあり、欲しいものを登録できる。 例えば誕生日の人にWishリストを見てもらいプレゼントが決められる。この仕組みを被災地に活用できる。 避難所で欲しいもの、不足しているものを登録し、支援物資を届ける 等。 復興は「被災前の状態に戻す」だけでなく「被災により生まれた新たな仕組み」を作り出す機会とすべき。 復旧時に必要とされた支援(技術)は、情報収集手段と情報の提供(安否情報、道路情報、放射能情報等)、 情報ネットワーク構築支援(インターネットやPCなど)、避難所管理支援(物資配布等)、ボランティア 活動支援など。 だが、支援ありきではダメだ。相手が必要としているものを理解する、組織プロトコルが重要。 災害時のIT支援に必要なキーワードは、「スピード、リズム、信頼(トラスト)」</p>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(講話)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
講話	第69回講話	<p>◆開催期日 2012年11月12日            ◆開催場所 ホテルエース盛岡            ◆参加人数 33名            ◆実施内容・議題等            「「におい」と嗅覚コミュニケーション研究の現状と展望」            岩手大学農学部応用生物化学課程            准教授 山下 哲郎 様</p>	<p>動物に嗅覚が必要な理由は？→食物を探す、可食の判断、天敵の発見、交配相手や親子の認識などのため。人は鼻と口からにおいを感じる。食べ物もおいがか大切。人が感じられるにおい物質は数万から数十万。ねずみはその構成タンパク質の4%がおいを感じるレセプタ。動物のにおいの生成機構の解明と制御が研究テーマ。</p> <p>他学部と連携し、「においによる生物間コミュニケーション研究の推進事業」が平成23年度文部科学省の補助事業として採択された。ペットや野生動物の行動をコントロールするにおいがあるというのが研究の特徴。猫の尿のにおいの研究は、腎臓病の早期診断のための尿検査の分析がきっかけ。特定のたんぱく質が、正常な猫の尿に多量に存在するのを発見し、コーキシンと名付けた。(酵素であった)コーキシンにより合成されるフェニリンは猫の尿に含まれる独特の臭気成分(人間のわきの臭いの物質と似た構造)である。コーキシンの作用を妨害することができれば猫の尿の問題も解決できるかもしれない。猫のフレーメンとは、猫が他の猫のにおいをかくと、その時、あたかも情報を読み取って考えているような行動をとること。この猫のフレーメンを引き起こす原因物質がわかれば、絶滅危惧種の生態調査や人工繁殖に利用できる。</p> <p>このほか、先端的なにおい解析技術を用いて三陸ワカメの香り評価法の開発を行っている。また、JR釜石線の沿線にライオンの排泄物から抽出した物質を散布し電車と野生動物の接触事故が減少した。現象としては証明できたが、理論がわからず科学になっていない。理論の解明がこれからの課題。</p>
講話	年末特別講演会 研究発表	<p>◆開催期日 2012年12月11日            ◆開催場所 村山味・リソ盛岡NEW WING            ◆参加人数 37名            ◆実施内容・議題等            「小学校出前授業」            岩手県立盛岡工業高等学校 工業化学科            「ロボット製作について」            岩手県立盛岡工業高等学校 電子機械科            「シルクロード第2章 繭の魅力に迫る 養蚕業の活性化を目指して」            岩手県立盛岡農業高等学校 環境科学科            動物・微生物研究班</p>	<p>岩手県立盛岡工業高等学校及び岩手県立盛岡農業高等学校生徒による、研究発表会を行った。</p> <p>「小学校出前授業」…市内の小学校を対象に出前授業を行っている。その様子についての発表。「液体窒素」と「石けん作り」について出前授業を行った。小学生の目の前で実験が行われるので好評だった。自分たちにとって、わかりやすい言葉や例えで説明することの難しさが解り様々な勉強の機会となった。</p> <p>「ロボット製作について」…ロボコン全国大会への出場経歴の紹介。2004年～2012年の間は2007年を除き8回出場。2011年のロボット製作及び大会参加の様子を映像で紹介。この年は全国10位、特別賞を受賞。2012年は岡山で開催され、テーマは「桃太郎が日本を元気に!」。自動空き缶回収ロボットと、空き缶立てロボットを製作した。映像でロボットを紹介した後、実機による空き缶立てのデモを行い見事に空き缶を縦に5本ほど積み上げた。全国大会の上位のロボットは、動きが速く、高性能、高耐久性であるとの報告があった。</p> <p>「シルクロード第2章 繭の魅力に迫る 養蚕業の活性化を目指して」…かつて県内で盛んであった養蚕業は今や危機的状況。活性化の為に研究活動を行っている。繭の成分の一つである「セリシン」を主成分とする繭エキスを抽出し、化粧品開発、効果の測定、幅広い世代へのPRを行った。農家や岩手大学の協力の元、繭エキスと桑エキスを使った「シルクワ」という商品を開発し、盛岡、盛岡南イオン内の結いの市などで販売。1週間で700本販売。現在は蚕の糞から新しい商品の開発を行っている。繭について出前講座を行い、幅広い世代へPR活動を行っている。</p>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(講話)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
講話	第70回講話	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2013年1月11日</li> <li>◆開催場所 村山ホール リオ盛岡NEW WING</li> <li>◆参加人数 40名</li> <li>◆実施内容・議題等 「学内カンパニーで地域貢献」 岩手大学工学部ものづくりEF起業家支援室 特任教授 佐藤 秀雄 様</li> </ul>	<p>大学の教育は教える場であると共に育ての場。例えば医学部では付属病院があり経営(事務)についても学ぶことができるが、工学部にはそれがない。そこで長期のインターンシップにかわり、育ての場となる学内カンパニーを考えた。</p> <p>社長は教師や学生、社員や作業員も学生の会社。起業や技術アドバイザーなどから支援を頂いている。アイデアを考え、企画を作り、設計をして、試作を行い、量産して、販売をする、損益を確認して、対価を得るということを学内カンパニーで行う。全てをできるわけではないが、かなりの部分が実現できている。教育訓練プログラムでは、経営の数字分析や原価計算から、語法、運営、機械加工の技術までを教える。ものを作ることが目的ではなく、ものを作った経験のある人を世の中に出すことが目的。「知っていること」と「できること」は全然違う。学生が、後輩に教える経験も大切。人に教えると自分がわかっていなかったことがわかる。誰かを頼って手伝ってもらった経験をした学生もいる。(発表直前の土日に、泊まりがけで企業の方に機械を修理してもらい発表に間に合わせたこともあった。)地元中小企業の社員と長い時間を共にすることで地元企業の良さを見つける学生もいる。</p> <p>企業にとっても学生への宣伝の機会。ふだんの地元企業は、PRが下手。かえって学生を遠ざけているかも。起業家経験を持つ学生は、地元の力の利用・地元の活性化ができ、中小企業で働く醍醐味を知る。電子メールで立派に仕事の文章が書けるようになる。是非、この取り組みに参加して、学生に仕事を出して欲しい。</p>
講話	第71回講話	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2013年3月14日</li> <li>◆開催場所 ホテルエース盛岡</li> <li>◆参加人数 36名</li> <li>◆実施内容・議題等 「巨大脳と微小脳 人の脳は賢くてムシの脳は賢くないか」 岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 教授 伊藤 憲三 様</li> </ul>	<p>講師は鹿児島県出身で、東京での生活が長かった。NTTの研究所から岩手県立大学へ。</p> <p>生物の進化は単細胞から多細胞へ。昆虫の微小脳と人の巨大脳を比較。</p> <p>何人が同時に話しているかを聞き分けるデモを行った。→データによると、正答率は3人まで3割、4人は5%以下。人の顔写真を左右反転させると、認識が難しくなる。人間の脳も万能ではない。</p> <p>細胞の数では、微小脳は100万個、巨大脳は1000億個。</p> <p>コオロギのもつセンサーは、背後から迫るハチが動かす空気流を検知する。感度は分子レベル。</p> <p>昆虫の脳が出すのはパルスで、対応する動きも単機能。</p> <p>一方、人はニューロン10万個で、1つの事象を識別している。人間の脳の機能のうち使っているのは3割といわれている。</p> <p>情報を劣化させた音声を、文字という視覚情報で補うことで認識させるデモを行った。→劣化した音声だけでは理解できないが、文字の表示と共に聞くと、そのように聞こえる。</p> <p>20世紀から21世紀へ、3つのシフト。知識は総合力から専門力(物を作る力)へ、人との関わりは競争から協力へ、成功はお金からやりがいへ。</p>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(講演)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
講演会	第66回講演会	<p>◆開催期日 2012年5月11日            ◆開催場所 村山ビル NEW WING            ◆参加人数 65名            ◆実施内容・議題等            「まけてなるものか!!」            株式会社マイヤ            代表取締役社長 米谷 春夫 様</p>	<p>(1) 東日本大震災の被害            ・東日本大震災により被災。全壊6店舗、惣菜工場、営業本部が被災。被害は年商規模の4割弱。            ・社員の死者・行方不明者は16名。16名は全員公休中で、勤務していた社員は全員避難し無事。            ・陸前高田にあった(社長の)自宅は流出。86歳の母親は避難先で流されてみつかっていない。</p> <p>(2) 当日の社員の対応            ・震災時とその後の社員の行動を誇りにも思う。震災当日社長は東京、30時間かけて車で帰った。            ・社長不在の中、従業員もお客様も無事に避難することができた。この社員の対応が素晴らしかった。            ・当日の警報は何を言っているのか聞き取れなかったが、大きな地震だったので直後に避難した。            ・残った大船渡インター店は当日の16時から、従業員の車のライトを照明に店頭販売開始。            ・「何があっても店を開ける。お客様の食・暮らしを守る」という思いが徹底されていた。            ・店舗屋上に避難している間も、流されてくる人の救助、近隣ホテルへロープを使って食料供給を行った。            ・こうした対応ができた背景には、日ごろからの防災訓練の成果があったと思う。            ・訓練にはトップが真剣にひたむきに対応すべき。トップの姿勢次第で社員は真剣に取り組む。            ・先代社長の時代から防災訓練は厳しかった。避難の時の歩き方に至るまで本格的に取り組んだ。</p> <p>(3) 翌日からの対応            ・クイックレスポンス実現のため、社長・専務が、取締役会にかけることなく全ての意思決定を行った。            (出張販売所、移動販売車への商品供給や、新規店舗出店)。早い対応と供給の維持を第一に掲げた。            業界は、カットスロットコンペティション下にあるが、緊急時にはそれを出すべきではない。            ・被災店舗のパート300人、従業員50人の一時休業を決定せざるを得なかった。            ・パートは転勤できず、雇用継続にも多額の費用がかかる為、失業給付金(7割補償)を受けてもらう他なかった。            上記の話をするとき必ず呼び戻す約束をした。拍手が起こった。涙がますます止まらなくなった。            ・結果として7月には全員に復帰を呼びかけることができた。今は、むしろ人手が足りない。</p> <p>(4) 痛感したこと            ・日ごろからの備えの大事さ。地震による被害はなかった。津波の想定はしていなかった。            ・リスクマネジメント(地震保険、衛星電話、倒壊防止対策、マニュアル整備、訓練)が役に立った。            ・特にクライシスマネジメントが必要。想定外は必ずある。            ・トップの使命は「健全な企業文化づくり」。普段からの習慣の積み重ね「習慣の和」が企業文化になる。            時間厳守、あいさつ、約束を守る、身だしなみ、お客様第一主義など。            ・判断のものさしはお客様目線。ここに出発点がある。例えば身だしなみ。マニキュア、ピアス、茶髪はダメ。            ・こうした企業文化は非常時に現れる。トップがいなくても社員ができる。            ・仕事を通じ成長できる会社にしたい。全員参加型経営を目指している。</p> <p>(5) 一年後の今            ・4店舗を出店(うち1店舗は復旧店舗)            ・3月の年度末決算は、被災が年商規模の4割ながら売上が前年をクリアした。奇跡的業績。            ・収益が良かったことについては、グループへの補助金の効果もある。            ・長期5ヶ年計画の途中で被災し新たに中期3ヶ年計画を立てた。2年で復興、残り1年で新しいところに出る。            ・5月に65歳を迎えるが、健康、家族、経済的にも恵まれてすごしていた。一方で、いつかどこかで大きな試練があるのではないかと考えていた。津波による修羅場は予想もしていなかった。            ・震災直後の車で移動する30時間に「大きい試練だ。冷静に対処しよう」と自分に言い聞かせながら来た。            ・ドイツの詩人、ツェーザル・フライシュレン 「勇気を失うな、唇に歌を持って、心に太陽を持って」            ・震災後は「再創業」。先代は50年前チリ津波の後に創業した。            当時は人も金も情報も信用もなかった。今はそれがある。親に負けれない。            足りないのはハングリー精神。みんなと共に頑張っていきたい。</p>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(講演)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
講演会	第67回講演会	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2012年7月11日</li> <li>◆開催場所 ホテルオークラ盛岡NEW WING</li> <li>◆参加人数 30名</li> <li>◆実施内容・議題等 「平成24年度いわて産業振興センターの活動について」 (財)いわて産業振興センター 専務 熊田 淳 様</li> </ul>	<p>小規模企業者等設備導入資金制度が廃止の危機にあり、その存続を要望することに対し支援を依頼。(東北6県+北海道で全国中小企業取引振興協会と中小企業庁に要望書提出)</p> <p>産業振興センターの沿革から今年度予算内容・支援事業に至るまで幅広い説明であった。</p>
	第68回講演会	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2012年9月11日</li> <li>◆開催場所 ホテルエース盛岡</li> <li>◆参加人数 37名</li> <li>◆実施内容・議題等 「今後の東北経済の展望と課題」 株式会社日本政策投資銀行 東北支店 東北復興支援室課長兼企画調査課長 蓮江 忠男 様</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災では、16兆円に及び資本ストックの被害があった。</li> <li>・岩手の沿岸部の被害率は47.3%</li> <li>・課題は、高所移転を含めた抜本的な街づくり、農業、水産業を含めた産業の再生、観光などの風評被害(特に、外国人観光客数が低下)</li> <li>・内陸部は復興の牽引役となるべき。</li> <li>・各業種の指数をみると、鉱工業は宮城の回復率が低い。仙台や多賀城などで製造業の大きな拠点が被災したことが原因。輸送機械は岩手が好調。東北を岩手が牽引している。小型ハイブリッド車が好調の要因。電子部品は低調。食料品やたばこは風評被害の影響を受けやすく回復していない。</li> <li>・東北の株式公開企業は58社、岩手は7社。東北は少ない。数だけで経済を語れないが1つの指標だ。</li> <li>・被災によってシェアを奪われ、回復していない という傾向がある。</li> <li>・住宅着工件数は、阪神淡路大震災後と比べ少ない。今後増えていくと想定される。</li> <li>・企業誘致の推進、地元企業の育成・再生が重要。そのためには産業再生のシナリオが必要。</li> <li>・東北から日本の再生を。国と自治体の連携強化が必要。</li> </ul> <p>※詳細は配布資料を参考のこと</p>
	第69回講演会	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2012年11月12日</li> <li>◆開催場所 ホテルエース盛岡</li> <li>◆参加人数 33名</li> <li>◆実施内容・議題等 「小岩井農牧株式会社について」 小岩井農牧株式会社 取締役経営開発室長 辰巳 俊之 様</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小岩井農牧株式会社は1891年開設。面積はJR山手線の内側の約半分・東京ディズニーランド600個分と同じ。</li> <li>・「小岩井」は、小野義真、岩崎彌之助、井上勝の頭文字。会社は、盛岡駅開業の1年後に創設。</li> <li>・開設のきっかけは、盛岡駅と小さからぬ関係がある。東北本線を一関から盛岡まで延伸するための視察(明治21年)の際、網張に向かう途中で見出した原野に井上勝が近代農場を作ることを決めた。</li> <li>・酸性土壌、湿地に悩みながら、土壌改良を行った。当初は畑作に取り組んだがうまくいかず、</li> <li>・岩崎久彌はスペシャリストに技術指導を仰ぎ、山林と酪農に注力するよう経営方針(現在も基本)を定めた。</li> <li>・現在、年間で森林の全面積の1%を切りだし、100年かけて育てた木材を収穫するようにしている。</li> <li>・酪農においては年間3万トンもの畜糞尿が出ていて、これを発電に利用する。</li> <li>・酪農の選択がなければ、現在のバイオマス事業はなかった。</li> </ul>



# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(講演)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
	第69回講演会	<p>◆開催期日 2012年11月12日            ◆開催場所 ホテルエース盛岡            ◆参加人数 33名            ◆実施内容・議題等            「畜産バイオマス発電事業について」            株式会社バイオマスパワーしずくいし            代表取締役社長 古川 斉司 様</p>	<p>畜糞尿の問題を解決できている例は、国内で数件しかない。            畜糞尿と食品残渣を混合して、これをメタン発酵させることで発電を行っている。同時に液肥、たい肥もできる。            農水省の「バイオマスの環づくり交付金」の支援事業として採択されている。            このような複合バイオマス利活用事業としては民間では数少ない黒字企業。年数百万円程度の利益。            施設は小岩井農場の敷地内にある。            2千立方メートルのメタン発酵槽、ガスホルダー、ガス発電機、消化液貯留槽、たい肥化設備等がある。            小岩井から出たものから発電した電気や、それに伴い生成する肥料などが、また小岩井内で利用される。                ⇒エネルギーと栄養が循環する。            こうして作られた電力は再生エネルギーとしては高い金額（1kWあたり39円。20年間固定）で買い取られる。            果汁と肉では、果汁のほうがメタンガスを取り出しやすい。            2億年前の化石燃料を取り出すのに比べ、バイオマスは地表付近の炭素を利用する為地球温暖化への影響が小さい。            自然エネルギーと比較してバイオマスは安定性が強み。自然エネルギーはその時々で供給量が変化する。            スマートコミュニティの実証事件が、京都府、横浜市、豊田市、北九州市で行われている。            京都府のけいはんな学研都市では下水を地域のエネルギーにしようという試みがなされている。            下水処理を「処理」から「産業」に、また適切にエネルギーを配分できるようにマネジメントを行う予定。</p>
講演会	新春講演会(第70回)	<p>◆開催期日 2013年1月11日            ◆開催場所 ホテル味のり盛岡NEW WING            ◆参加人数 40名            ◆実施内容・議題等            「2013年日本景気財政と為替のポイント」            野村證券株式会社            盛岡支店 支店長 東 英憲 様</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年の4月に盛岡支店長として赴任したばかり</li> <li>・ 震災の時はニューヨークにいたが、東北の人達の危機に際してのモラルの高さが評判だった。</li> <li>・ 東北は自然が厳しいから、自ずと助け合うようになったと言うがそれは謙遜な発言に思える。</li> <li>・ アメリカ人はビジネスでは日本人が一番信頼できると言っている。</li> <li>・ 世界は東北を尊敬しており、この土地で仕事ができることをとても誇りに思う。</li> </ul> <p>1. 欧州債務問題について～ギリシャの行方～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 救済策として①「EFSF・EMS等加盟国による救済」、②「ユーロからの離脱」、③「ユーロ共同債・銀行同盟」、④「ECBによる国債買い入れ、量的緩和(QE)の実施」等が考えられる。</li> <li>・ ①の方法はドイツやフランスの税金でギリシャを救済する方法だが、これを行ってフランス債は格下げされた。</li> <li>・ ②の方法では、通貨安により輸出や観光が増え、経済は回復する。が、自国通貨の価値が下がることで自分の財産が目減りするために、国民が反対するので難しいだろう。</li> <li>・ ③これを実行するには各国の財務省を無くして、統合することになる。今からでは難しい。</li> <li>・ ④が一番現実的。実際のところ、ギリシャは生かさず殺さずの対応になるだろう。ギリシャの債務はどうにもならない金額ではないが、本格的な救済を行えば他の国からも救済を求められ苦しいことになる。このまま延命できれば、他の財政が苦しい国も自力でがんばってもらうことができる。</li> <li>・ 実際のところ、各銀行はギリシャ国債の損金引当済みであり、今ギリシャが潰れても被害は大きくない。</li> </ul>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(講演)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
講演会	<p>新春講演会 (第70回) (続き)</p>	<p>◆開催期日 2013年1月11日 ◆開催場所 村外味(リ)盛岡NEW WING ◆参加人数 40名 ◆実施内容・議題等 「2013年日本景気財政と為替のポイント」 野村證券株式会社 盛岡支店 支店長 東 英憲 様</p>	<p>(続き) 2. アメリカ、中国の経済について ・景気を良くする方法は3つ「財政政策」「低金利政策」「量的緩和」 ・アメリカ中央銀行は、失業率が6.5%を安定的に下回るまで、毎月3兆円分の住宅ローンを買っている。 ・失業率には直ちに影響は出ていないが、住宅ローン市場は活性化し、経済は上向いている。 ・中国は輸出主導型でアメリカとヨーロッパに依存した経済を、内需主導に転換したいと考えている。 ・インフレを抑えながら内需主導に転換できるかが課題。 ・日本の高度成長期をモデルに、「日本列島改造計画」と同じような政策を行おうとしている 3. アベノミクスが目指す方向について ・量的緩和を行うとお金の価値が下がる(物価が上がる)、国民は物価上昇で景気回復を予想するようになる。 ・ここで政府が雇用を生み出すことができれば景気は上がり、円安になると景気の上昇は加速する。 ・日本の景気回復には「成長戦略」、「財政政策」、「金融緩和」が必要。 ・最も重要なのは「成長戦略」。「金融緩和」だけではインフレになるだけ。 ・日銀は民間銀行にお金を渡すことしかできない。民間銀行に渡ったお金が融資に使われなければお金は世の中に出ていかない。だからこそ「成長戦略」が大切。 ・公共投資は、その結果景気が良くなると意味がない。 ・政府が推進する、クリーンエネルギーや医療はすぐには儲からないため民間は手を出さない。 ・経済成長が見込める民間のアイデアを実現できるのが一番良い方法。 ・それぞれがこうしたら経済が成長すると思えるようなアイデアを政府が広いあげるべき。 ・例えば野村証券が直接融資を行うことができたり、保育園と幼稚園を合体させて小さい子どもを19時まで預かるようにすれば女性がもっと働くことができ、収入が増えれば消費も増える。 4. 日本の財政状態 ・日本の借金は1,000兆円を超えている。なのになぜ円高か？ ・貿易黒字に状態にあることが理由の一つ。日本の製品が売れると円は必要になるから。 ・日本の借金はほとんど国内でまかなわれている。 ・国債のほとんどは金融機関が買っていて、これは個人の預金。間接的に個人が国債を買い支えている。 ・「日本製品が売れる→お金が入ってくる→銀行に預ける→国債を買う」という仕組みになっている。 しかし状況は変わり始めている。 ・今は自動車工場が海外に出て行ってしまっていて貿易赤字。2012年は6.9兆円の赤字(オイルショックの時の倍)。 ・ユニチャームのように本社自体が海外に行く例もある。 ・トヨタは株式全体の25%を占める外国人株主からTPPに参加する国へ海外移転を迫られてもおかしくない。 ・法人税の引き下げも検討しなければならない。 ・今の1%分の金利が上昇すると、借金1,000兆円の利子が10兆円ずつあがっていく。 仮に4%の金利になると、利子は40兆円。これは現在の税収と同じ金額。 ・イギリスでは過去に産業空洞化の時代を体験している。それを参考にすることは大切だろう。 ・今後中国の近海はきな臭くなってくるとも思えない。太平洋側の日本の港の価値は高くなるかもしれない。 震災後の全ての港の復旧を行うのではなく、大きな24時間対応の港を整備するのはひとつの方法。 取捨選択も必要ではないか。人口減少県が人口増加県に変わることであり得る。 ・夏の参院選後、国民の票を気にしなくて良くなる3年間がひとつの勝負の期間と考えられる。 ・まずは外国為替と日経平均株価がリーマンショック前の水準に戻ることが必要。 ・民間も今どのようにしなければいけないか、うすうす気がつき始めている。 ・今年日本が変わらなければならない。今年癸巳(みずのと・み)脱皮の年、大きく変わることを期待したい。</p>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(講演)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
講演会	第71回講演会	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2013年3月14日</li> <li>◆開催場所 ホテルエース盛岡</li> <li>◆参加人数 36名</li> <li>◆実施内容・議題等</li> </ul> 「3.11震災・大津波被害復旧から復興へ(建設業として)」 鹿島建設株式会社東北支店 盛岡営業所長 嘉本 孝志 様	<p>建設業の立場から、震災から2年で行ってきた事と復興への準備についてお話しする。</p> <p>日本は世界の陸地の0.25%の面積。ここで、M6以上の地震について、世界の23%が発生している。岩手、三陸地域は津波の被害が大きかった。当初支援は生命を守る為の物資支援が中心だった。その後、建築物の防災対策に取りかかった。防災・減災を考えた復旧計画が大切。防災対策済みの病院は被害が少なかった。発電機は屋上、給水タンクはステンレス製、サーバは4階。岩手県内のガレキ525万トン、人の財産を含む様々な内容物。処理の機械化を試みているが選別は手作業。処理の実績は、処理場で担当するガレキ全体67万トンのうち半分くらい。地元雇用、130人~360人/日建設業正常化プロジェクト。地元雇用者を対象に小型クレーンや玉掛けの資格取得講習を行っている。思い出の品返却プロジェクトなどにも取り組んでいる。</p> <p>復興への準備。</p> <p>事業推進PPP (public-private partnership 官民パートナーシップ) に取り組んでいる。</p> <p>三陸沿岸道路事業管理業務を行う。道路を10工区に分け、工事発注前の業務を行う。行政と地域住民の調整を行う等施工ではない復興支援という位置づけ。</p> <p>強度を強くする為に橋の形状を、橋梁型からボックス型へ変更する提案も行っている。</p> <p>水門や防潮堤などの案件は来年度にかけて出件する見通し。</p> <p>土地収用、設計発注業務、入札不調、技術者不足などが問題。</p> <p>復興事業をスピードアップしないと人の流れが取り戻せない。</p> <p>人が戻ってこられる街を造ることが建設業者の使命。</p> <p>微妙な時期の為にあまり突っ込んだ話ではできず申し訳無く思う。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2013年3月14日</li> <li>◆開催場所 ホテルエース盛岡</li> <li>◆参加人数 36名</li> <li>◆実施内容・議題等</li> </ul> 「応急仮設建設物への取組み」 大和ハウス工業株式会社岩手支店 建築営業所所長 新谷 聡 様	<p>震災初日は全く状況がわからず、対応準備はしていたものの次第に明らかになる被害は想像以上だった。</p> <p>応急仮設住宅の建設は災害救助法に定められた事業。</p> <p>所轄官庁は厚労省だが、国交省住宅局からの指示。</p> <p>発注は各自治体で、あらかじめ住団連の下部組織(社)プレハブ建築協会が随意契約済み。</p> <p>仮設住宅の他に、仮設診療所、中小機構による仮設施設(工場、店舗)も手がけた。</p> <p>仮設住宅1万戸は県の賃貸で、価格も予め決まっている。</p> <p>3月13日から15日で現地で用地選定及び打ち合わせ。</p> <p>3月19日から31日にかけて陸前高田で6棟36戸着工も、電気も水もない。</p> <p>水は井戸を掘って対応したが、かなりの混乱の中での作業だった。</p> <p>無い部品は急いで作ってもらった。こういう対応ができるところは、さすがは日本と思った。</p> <p>今後の動向として、仮設物件もまだしばらくは使い続ける必要がある。</p> <p>仮設工場の売上げもまだまだ戻っていない。例えば100億あった売上げのうち60億まで等。</p>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(研修・親善)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
親善	第19回 ゴルフ コンペ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2012年6月23日</li> <li>◆開催場所 南部富士カントリークラブ</li> <li>◆参加人数 24名</li> </ul>	<p>南部富士カントリークラブ「岩手山・姫神山コース」において、盛岡工業クラブ第19回ゴルフコンペを開催。ホテルエース盛岡にて、表彰式を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆優勝…齊藤義則(横河電子機器(株)事業所室長)</li> <li>◆準優勝…千種成友(横河電子機器(株)専務取締役)</li> <li>◆第3位…寺田継弘(みちのくコココーラボラダクト(株)取締役製造部長)</li> </ul>
	第20回 ゴルフ コンペ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2012年9月29日</li> <li>◆開催場所 南部富士カントリークラブ</li> <li>◆参加人数 21名</li> </ul>	<p>南部富士カントリークラブ「岩手山・姫神山コース」において、盛岡工業クラブ第20回ゴルフコンペを開催。ホテルエース盛岡にて、表彰式を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆優勝…寺田継弘(みちのくコココーラボラダクト(株)取締役製造部長)</li> <li>◆準優勝…加川浩之(東北電力(株)盛岡営業所長)</li> <li>◆第3位…菊池慶矩(川嶋印刷(株)代表取締役)</li> </ul>
	忘年会	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2012年12月11日</li> <li>◆開催場所 村山ホール リソ盛岡NEW WING</li> <li>◆参加人数 37名</li> </ul>	<p>岩手県立盛岡工業高校の生徒2組、岩手県立盛岡農業高校の生徒1組の研究発表の後、恒例の忘年会を行った。</p> <p>今年お世話になった関係者の皆さまもお呼びし、平成24年最後の会合として親睦を深める事が出来た。</p>
	新年 交賀会	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2013年1月11日</li> <li>◆開催場所 村山ホール リソ盛岡NEW WING</li> <li>◆参加人数 40名</li> </ul>	<p>恒例の新年交賀会、病氣療養中であった長岡会長が年末に急逝され、その報告と黙祷を行った。</p> <p>賑やかな事を好んだ会長だったので交賀会は中止にせず、当クラブに交流のある方々に出席をいただき、長岡会長の思い出を語りながら、景気動向、各社会員の動向についても活発な意見交換会を行い、親睦を深めた。</p>
その他	支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2012年5月11日</li> <li>◆開催場所 子ども科学館</li> </ul>	<p>盛岡少年少女発明クラブ、盛岡市子ども科学館へ、盛岡工業クラブから、活動助成金10万円(クラブ予算から5万、定例会毎の募金から5万)を寄贈した。今後とも盛岡少年少女発明クラブを支援していくことを伝えた。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2013年2月3日</li> <li>◆開催場所 子ども科学館</li> </ul>	<p>盛岡少年少女発明クラブへ、盛岡工業クラブを代表して、山田副会長、工藤副会長が盛岡工業クラブ賞と賞品(工具セット)を授与。今後とも盛岡少年少女発明クラブの活動を継続して支援する事を伝えた。</p>

# FY2012 盛岡工業クラブ活動実績一覧表(研修・親善)

区分	事業の名称	開催日時、実施内容・議題等	会議等における決定事項・事業等実施状況など
視 察 研 修	視察研修 情報収集		<p>(株)東北佐竹製作所 1968年(昭和43年)北上市に設立。広島にある親会社(株)サタケが開発した穀類用乾燥機、粳摺機、精米機、選別計量機などの製品の量産機種専門の生産を一手に引き受けている。資本金5千万円、敷地面積6万6千平米、従業員350名程度(うち正社員160名程度)、至近の生産台数18千台程度、売上高60百万円程度。工場の特徴は、9、10月が農家の繁忙期にあたるため、この2か月間は生産ラインをストップし、11月から翌年8月までの稼働としている。最近では1台4~7千万円する海外向けの選別計量機がユーロ危機の影響により受注ゼロとなっている。今後、市場規模が縮小するなかで、生き残り策を検討中、本社大として食・パイオ分野に触手を伸ばしている。ライバルは山本製作所(山形)、静岡精機、大手のクボタ(同社の販売代理店)、同社に販売部門がないことが難点。《トピックス》親会社のサタケは日本酒に使用する酒米の精米機を考案し生産したことに始まる。東北サタケ北上立地の決め手は北上駅引込線近辺に土地があったため(当時は貨物列車輸送の全盛で利便性が良い)。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催期日 2012年10月26~27日</li> <li>◆開催場所 北上・一関地区</li> <li>◆参加人数 16名</li> <li>◆実施内容・議題等</li> <li>◇見学先企業・担当者さま</li> <li>・株式会社東北佐竹製作所 総務部部长 田村 学 氏</li> </ul>	<p>(有)丸三漆器 同社は秀衡塗工房として創業百余年の経験を「ぬりものづくり」の中に生かし堅牢な漆器を造っている。製品はホオノキ、トチ、ブナ等の天然木丸太から土台になる木地作り、下地作り、塗り、絵付けという手間ひまのかかる工程を経てようやく完成する。社員は15名、岩手県の生産量の6割を占めている。同業者組合は12社12名。《トピックス》漆は「湿気で乾く」。岩手県産漆は品質が良く退色性に優れている、そのため日光東照宮にも使われている。ガラス、陶器、ABS樹脂などにも塗れる特長を有す。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・有限会社丸三漆器 代表取締役社長 青柳 一郎 氏</li> <li>・三菱マテリアル株式会社岩手工場 工場長 小松 佳秋氏他 氏</li> </ul>	<p>三菱マテリアル(株)岩手工場 1958年(昭和33年)操業開始。前身は東北開発セメント。石灰石(砕石・骨材)、セメント製品を製造。今年度の生産は震災特需の影響もあり54万トン程度(生産能力は年間75万トン)。従業員71名(協力会社含132名)。工場の特徴は、主要原料である石灰石を隣接の長坂鉱山より採掘(地山調達100%)している原料立地型内陸工場。セメント工場としての規模は日本で最も小さいが、多種多様なセメント、石灰石製品を生産。リサイクル技術を駆使し、廃棄物をセメント原料等代替に有効活用、特に、震災後は一関、宮古、山田、大槌、釜石の震災廃棄物(今年度は上期末で12,400トン)を受け入れ、今は震災廃棄物が入ったもので超一流の製品を作っている。《トピックス》震災後の電力不足に対応するため東北電力の要請により1,600kw×3基の発電所を新設(現在は解体中)。放射能問題に積極的に対応。勉強会の開催や被爆管理、受け入れ原燃料の管理の徹底を図っている。また、工場内排煙の分析は第三者機関の大東環境科学に依頼している。</p>
			<p>昼食は食に詳しい水先案内人のお勧めの店。その名も千厩町にある「レストランあさひや」。移動に1時間半を要したためか、かなりの腹ペコ状態のなか、水先案内人を絶品と言わせた「オムハヤシ」をいただく。確かに美味しかった。</p>